

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

2022-2023 年度 SDGs 認知度調査

結果のまとめ



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

【目次】

調査の趣旨	P.1
-------	-----

< 学生編 >

1-1	お茶大生と SDGs（結果の概要）	P.2
1-2	調査の概要	P.3
1-3	調査結果	
	（1）対象者の特徴	P.5
	（2）SDGs 認知度	P.6
	（3）SDGs に対する関心	P.7
	（4）SDGs 各目標に関する知識・態度・行動	P.10
	（5）SDGs 達成に向けた行動の実施状況	P.16
	（6）SDGs に関してお茶大に求めること	P.37

< 教職員編 >

2-1	教職員と SDGs（結果の概要）	P.40
2-2	調査の概要	P.41
2-3	調査結果	
	（1）対象者の特徴	P.43
	（2）SDGs 認知度	P.44
	（3）SDGs に対する関心	P.44
	（4）SDGs 推進活動に対する参画意識	P.46
	（5）SDGs 推進研究所の活動に対する認知度	P.57
	（6）本学 SDGs 推進活動に対するご意見	P.59

< 参考資料 >

1)	調査質問紙（お茶大生対象）	P.61
2)	調査質問紙（一般女性対象）	P.74
3)	調査質問紙（教職員対象）	P.87

調査の趣旨

SDGs 推進研究所では、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の達成に向けた実践活動を統合する拠点として、生活者を起点とした SDGs 教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体で SDGs の達成を推進していくための人材養成を行っている。2022 年度から 2028 年度にかけて実施される本研究所の事業の学内及び社会に対する波及効果を測定するためには、SDGs に関する継続的なデータ収集・分析・評価が必要である。

本調査では 2022-2023 年度に、本学学生及び教職員等の SDGs 認知度や参画意識の初期値を測定し、今後の学内外に向けた SDGs 推進活動のための基礎資料を得ることを目的に、以下 2 つの調査を実施した。

- ① 本学学生（学部生・大学院生）を含む女子青年における SDGs の認知度及び SDGs に関する知識・態度・行動、参画意識、SDGs に示される社会課題解決のための生活行動や習慣に関する調査
- ② 本学教職員における SDGs 認知度及び業務を通じた SDGs 参画意識に関する調査

調査①では、本学学生（学部生・大学院生）及び同世代の女子青年を対象に、オンライン調査を実施した。我が国における若年者は他の世代と異なり、学生時代から SDGs に関する学修を行っているが、このような環境要因が SDGs 認知度や関連する生活行動に及ぼす影響には不明点が多い。本調査を通じて、人材養成の対象となる本学学生の特徴を適切に把握し、効果的な SDGs 推進活動を展開することを目指す。

調査②では、本学教職員を対象に、オンライン調査を実施した。SDGs 教育・研究プログラムの開発・実装には、教職員の協力が不可欠である。従って、教職員の SDGs 認知度や参画意識の向上は、本研究所の事業そのものの成否を左右する重要な要因といえる。本調査を通じて教職員の現状を適切に把握し、効果的な SDGs 推進活動の立案に役立てる。

なお、本調査はパネル調査として計画されており、2025 年度に中間値測定のため同様の調査を実施予定である。

本調査を活用した今後の SDGs 推進研究所の活動が、学内及び社会における生活者の行動に影響し、SDGs 達成に貢献することが期待される。

学生編

1-1 お茶大生と SDGs（結果の概要）

p. 6-7

お茶大生のSDGs
認知度は95.5%
関心度は84.7%

p. 8

年齢が低いほど、
認知度・関心度とも高い

p. 10-13

SDGsの目標5・4・1に
ついては他の目標より
よく知っており関心も
高い

p. 10-13

文教育学部の学生は、
SDGs各目標の知識・
関心が全般的に高い
（目標5で顕著）

p. 14-15

自分の行動が達成に
最も影響すると考えて
いるのは目標12

p. 16

目標達成のために
具体的な行動を取って
いると考える学生は
48.0%

p. 18

SDGsに対する関心が高
いほど、SDGs達成に貢
献する行動をとっている

1-2 調査の概要

【目的】

女子青年における①SDGs 認知度、②参画意識、③SDGs に関する知識・態度・行動との関連を明らかにするために、オンライン調査（無記名自記式）による横断研究を実施すること。

【方法】

（1）研究デザイン：横断研究

本学学生を対象とした【調査 1】、一般女子青年を対象とした【調査 2】から構成される無記名自記式調査

（2）調査の対象者

【調査 1】 本学の学部生（1～4 年生）、大学院生（博士前期課程 1～2 年生、博士後期課程 1～3 年生）合計約 2,700 名

【調査 2】 調査会社（株式会社アスマーク）にモニター登録している一般女性約 600 名（18～25 歳）

（3）調査実施期間

【調査 1】 2023 年 2 月 1 日～6 月 30 日 ※2023 年度新入生も調査対象とした

【調査 2】 2023 年 2 月 8 日～13 日

（4）調査内容

質問項目リスト参照

質問項目リスト（調査1・2）

セクション	No	内容	質問 項目数	【調査1】 本学学生	【調査2】 一般女性
A	1	本学への所属	1	○	
A	2	学籍番号の上5桁(入学年度・所属学部・学科)	1	○	
A	3	年齢	1	○	○
A	4	母国語	1	○	
A	5	居住形態	1	○	○
A	6	居住地(都道府県)	1		○
A	7	婚姻状況	1		○
A	8	職業	1		○
A	9	生活のゆとり感	1	○	○
A	10	学生生活充実度	1	○	
A	11	2022年度後期の登校日数	1	○	
B	1	SDGsの知識	1	○	○
B	2	SDGsへの全般的な関心	1	○	○
B	3	SDGsに関心を持ったきっかけ	1	○	○
B	4	SDGs各目標への知識	17	○	○
B	5	SDGs各目標への関心	17	○	○
B	6	SDGs各目標と自分の生活との関連	17	○	○
C	1	SDGs実践行動の全般的な実践状況	4	○	○
C	2	SDGsに関する生活行動	6	○	○
C	3	夏季の冷房設定室温	1	○	○
C	4	SDGsに関する食行動	10	○	○(9)
C	5	朝食摂取状況	1	○	○
C	6	SDGsの目標達成のための主体的な活動の実践状況	12	○	○
C	7	男女の役割にとらわれない行動	1	○	○
C	8	いじめや不登校の経験	1	○	
D	9	本学のSDGsに対する自由意見	1	○	
D	10	SDGsの実現のために自分ができること	1		○
E		IMC 質問	1	○	○
N/A		ダミー質問	5	○	○
		total	105	102	98

1-3 調査結果

(1) 対象者の特徴

	お茶大		一般		p^a
	n/平均	%/SD	n/平均	%/SD	
合計（人）	424	100	602	100	
性別（人）					
女性	424	100	602	100	-
年齢（歳）	21.3	3.2	21.9	2.3	0.002
居住形態（人）					
一人暮らし	90	21.2	141	23.4	
実家暮らし（お茶大）	234	55.2	-	-	-
寮暮らし（お茶大）	98	23.1	-	-	
同居者あり（一般）	-	-	461	76.6	
無回答	2	0.5	0	0	
暮らし向き（1：全くゆとりがない～ 5：ゆとりがある）	3.5	1.09	2.9	1.14	<0.001
職業（一般のみ回答・人）					
会社・団体の経営者・役員			14	2.3	
会社員（契約社員／派遣社員含む）			138	22.9	
公務員			16	2.7	
自営業・自由業			10	1.7	
専業主婦			12	2	-
パート・アルバイト			68	11.3	
学生			307	51	
無職／リタイア			32	5.3	
その他			5	0.8	

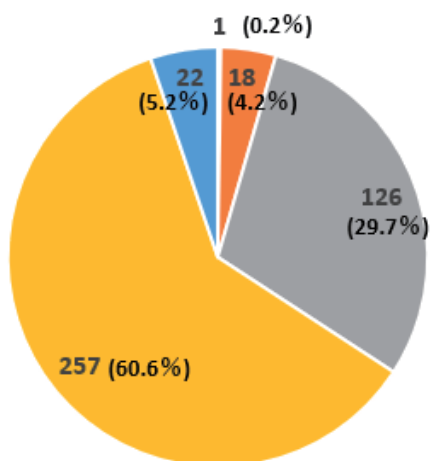
^a t 検定

※中間報告書及び23年度報告書において、本学学生の居住形態の人数分布が誤っておりました。お詫びして訂正いたします。

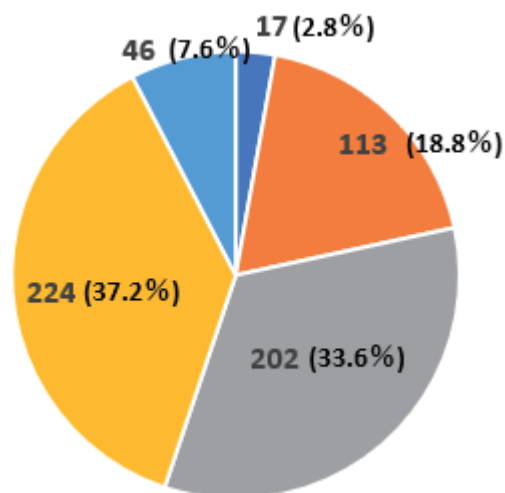
(2) SDGs 認知度

「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」

お茶大生 (n=424)



一般女性 (n=602)



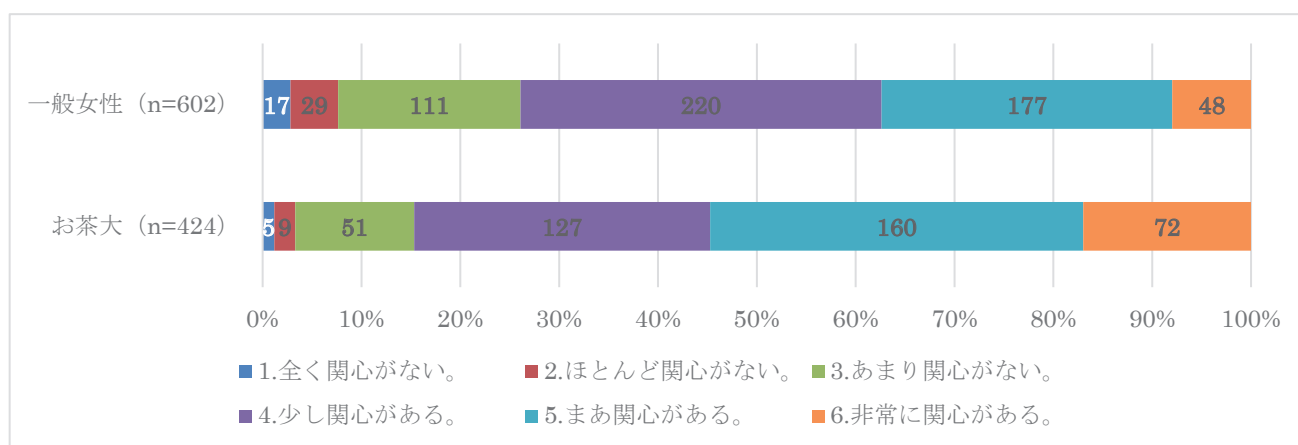
- 1. 名前を聞いたことがない。
- 2. 名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3. 名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4. 上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5. 上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

SDGs 認知度（上記項目で3～5 と回答した者の割合）は、

お茶大生：95.5%、一般女性：78.4%であった。

（３）SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。



カイ二乗検定, $*p<0.001$

SDG 関心度（上記項目で 4～6 と回答した者の割合）は、

お茶大生：84.7%、一般女性：73.9%であった。

SDGs の認知度及び関心の属性による比較 (n=424)

有効回答数 (人)	全体 { 平均値 (SD) }		学部/大学院 { 平均値 (SD) }			p 値 [†]	年齢と の相関 [§] (r)
			文教育 (n=133)	理 (n=68)	生活 (n=120)		
認知度 ^{††}	424	3.7 (0.7)	3.9 (0.6) ^{ab}	3.5 (0.7) ^a	3.7 (0.6)	3.5 (0.7) ^b	-0.14 ^{**}
関心 ^{§§}	424	4.5 (1.0)	4.8 (0.9) ^{ab}	4.2 (1.1) ^a	4.6 (0.9)	4.3 (1.1) ^b	-0.13 [*]

*<0.05, **<0.01, ***<0.001 SD : 標準偏差。 a-b : 同じ文字を付した群間に有意差あり (p<0.05)

†一元配置分散分析 §Pearson の相関係数

††選択肢 : 1.名前を聞いたことがない。 ; 2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。 ; 3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている。 ; 4.上記 3 に加えて、17 のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。 ; 5.上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

§§選択肢 : 1.全く関心がない。 ; 2.ほとんど関心がない。 ; 3.あまり関心がない。 ; 4.少し関心がある。 ; 5.まあ関心がある。 ; 6.非常に関心がある。

<表の見方>

n : 解析対象者の人数。例 : 文教育の列では、学生 133 人分のデータを使って解析している。

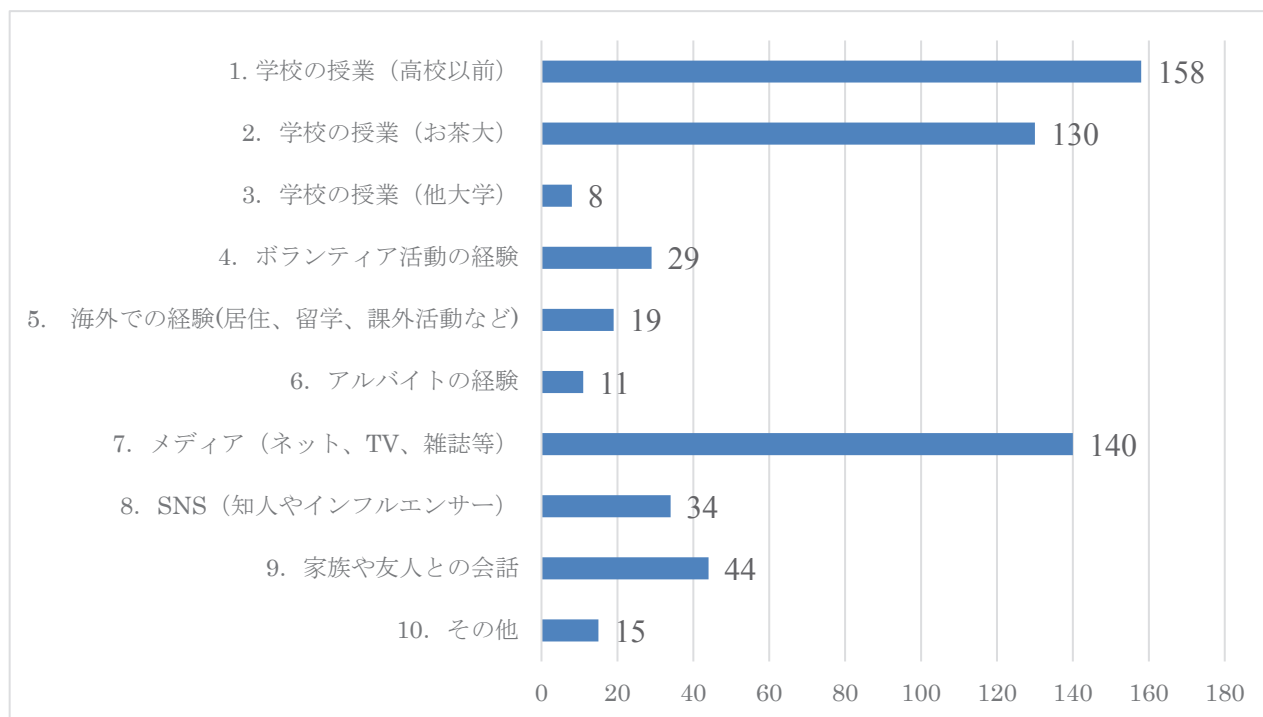
p 値 : 0.05 未満であれば、学部/学科により平均値に差があるとみなすことができる。(数値右上のアルファベット : 同じアルファベット同士のグループ間で平均値の差がある)

年齢との相関 : *、**、***がついている数値は、認知度/関心と年齢との間に相関関係あり。*の数が多い程、結果が確からしい。相関係数 (数値) は-1~1 の値を取る。1 に近い程強い正の相関関係があり (例 : 年齢が高い程認知度/関心も高い)、-1 に近い程強い負の相関がある (例 : 年齢が低い程認知度/関心も高い)

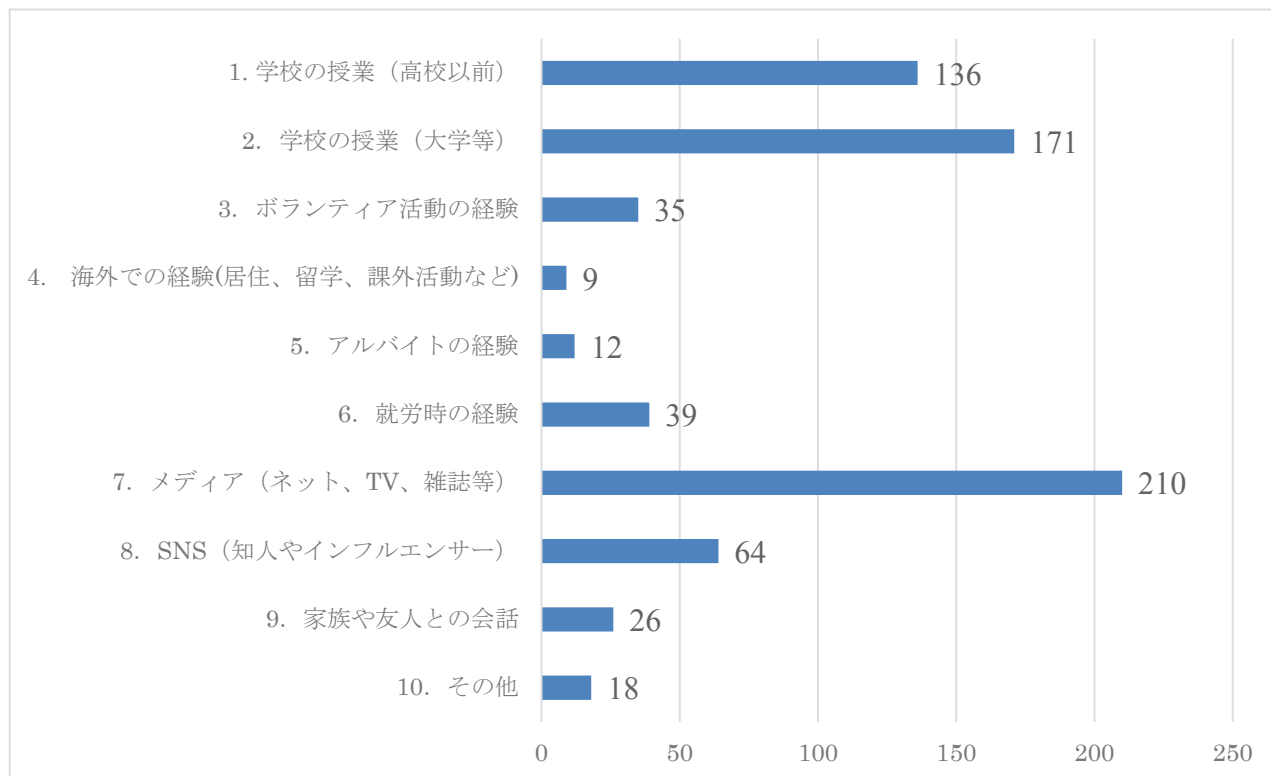
SDGs の認知度及び関心は、文教育学部の学生が理工学部の学生や大学院生より高く、年齢が若い程高い傾向があった。

あなたが、SDGsに興味・関心を持ったきっかけは何ですか。（複数選択可）

① お茶大生（n=356）



② 一般女性（n=602）

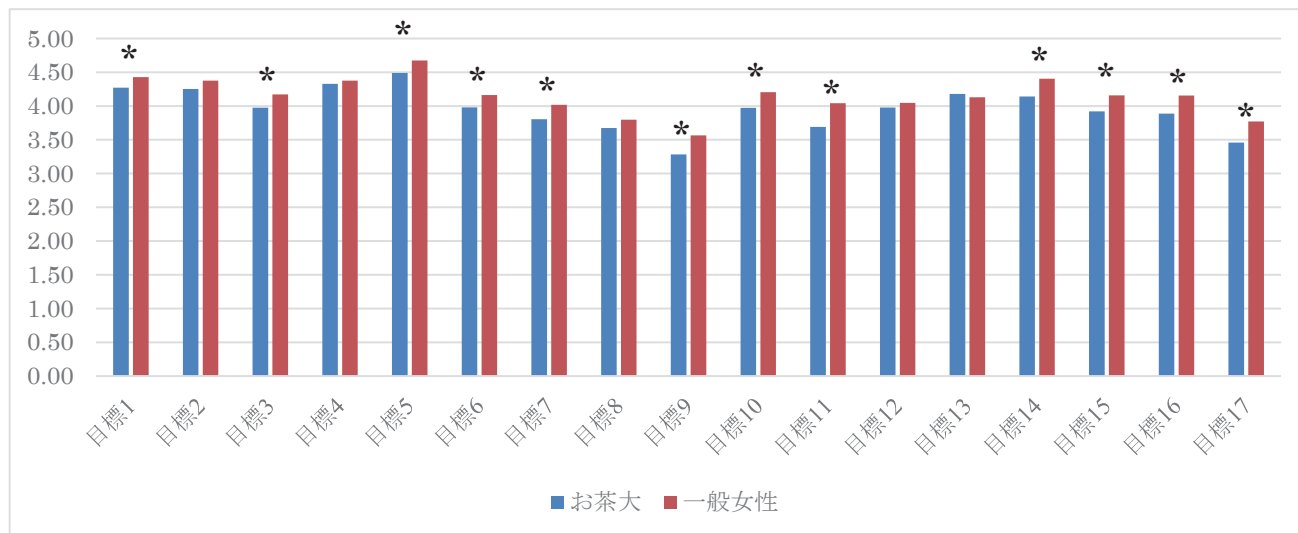


(4) SDGs 各目標に関する知識・態度・行動

① 各目標に関する知識

「あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。」

1：全く知らない～6：非常によく知っている の 6 件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

<図の見方>

*が付いている目標では、お茶大生と一般女性の回答の平均値に有意な差がある。

高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 5	4.7	目標 9	3.3	目標 5	4.7	目標 9	3.6
2	目標 4	4.4	目標 17	3.5	目標 1	4.4	目標 17	3.8
3	目標 1	4.4	目標 8	3.7	目標 14	4.4	目標 8	3.8

お茶大生も一般女性も、目標 5 に関する知識が全 17 の目標中最も高かった。
 文教育学部の学生は、多くの目標に関する知識が他学部・大学院生より高かった。
 16 の目標で、回答者の年齢が若い程知識が高い傾向があった。

お茶大生 SDGs の各目標に対する知識 属性による比較 (n=401~405)

有効回答数 (人)	全体 { 平均値 (SD) }	学部/大学院 { 平均値 (SD) }			p 値†	年齢との 相関§		
		文教育 (n=123~124)	理 (n=60~63)	生活 (n=117)				
目標 1	405	4.3 (1.0)	4.6 (0.8) ^{ab}	3.9 (1.1) ^a	4.3 (1.0)	4.1 (1.0) ^b	<0.001	-0.16**
目標 2	405	4.3 (1.1)	4.5 (0.9) ^{ab}	3.9 (1.2) ^{ac}	4.4 (1.0) ^c	4.1 (1.1) ^b	<0.001	-0.15**
目標 3	403	4.0 (1.1)	4.2 (1.0) ^a	3.6 (1.2) ^b	4.1 (1.1)	4.0 (1.2)	0.02	-0.10
目標 4	403	4.3 (1.1)	4.8 (0.9) ^{abc}	4.0 (1.2) ^a	4.3 (1.0) ^b	4.0 (1.1) ^c	<0.001	-0.22***
目標 5	403	4.5 (1.1)	4.9 (0.8) ^{ab}	4.2 (1.3) ^a	4.6 (1.0)	4.2 (1.1) ^b	<0.001	-0.14**
目標 6	401	4.0 (1.1)	4.3 (1.0) ^a	4.1 (1.1)	4.0 (1.1)	3.7 (1.1) ^a	0.002	-0.16**
目標 7	402	3.8 (1.1)	4.0 (1.1) ^a	3.9 (1.2)	3.8 (1.0)	3.5 (1.2) ^a	0.01	-0.14**
目標 8	403	3.7 (1.2)	4.2 (1.1) ^{abc}	3.4 (1.1) ^a	3.6 (1.2) ^b	3.5 (1.3) ^c	<0.001	-0.14**
目標 9	403	3.3 (1.2)	3.6 (1.1)	3.1 (1.1)	3.2 (1.2)	3.1 (1.4)	0.018	-0.12*
目標 10	402	4.0 (1.1)	4.4 (1.1) ^{abc}	3.8 (1.1) ^a	3.9 (1.2) ^b	3.8 (1.1) ^c	<0.001	-0.15**
目標 11	402	3.7 (1.2)	4.0 (1.1) ^a	3.5 (1.2)	3.7 (1.2)	3.5 (1.2) ^a	0.005	-0.13*
目標 12	402	4.0 (1.3)	4.3 (1.1) ^{ab}	3.6 (1.3) ^{ac}	4.1 (1.2) ^c	3.8 (1.4) ^b	<0.001	-0.21***
目標 13	401	4.2 (1.1)	4.4 (1.1) ^a	4.1 (1.4)	4.3 (1)	3.9 (1.3) ^a	0.011	-0.15**
目標 14	403	4.1 (1.1)	4.3 (1.0) ^a	4.1 (1.3)	4.2 (1.1)	3.9 (1.2) ^a	0.06	-0.19***
目標 15	401	3.9 (1.2)	4.1 (1.1) ^a	3.9 (1.3)	4 (1.2)	3.6 (1.1) ^a	0.03	-0.21***
目標 16	402	3.9 (1.2)	4.3 (1.1) ^{ab}	3.6 (1.2) ^a	3.9 (1.2)	3.6 (1.1) ^b	<0.001	-0.24***
目標 17	402	3.5 (1.3)	3.8 (1.2) ^{ab}	3.1 (1.2) ^a	3.5 (1.4)	3.2 (1.3) ^b	0.002	-0.15**

*<0.05, **<0.01, ***<0.001 [†]一元配置分散分析 §Pearson の相関係数

^{a~c} : 同じ文字を付した群間に有意差あり (p<0.05)

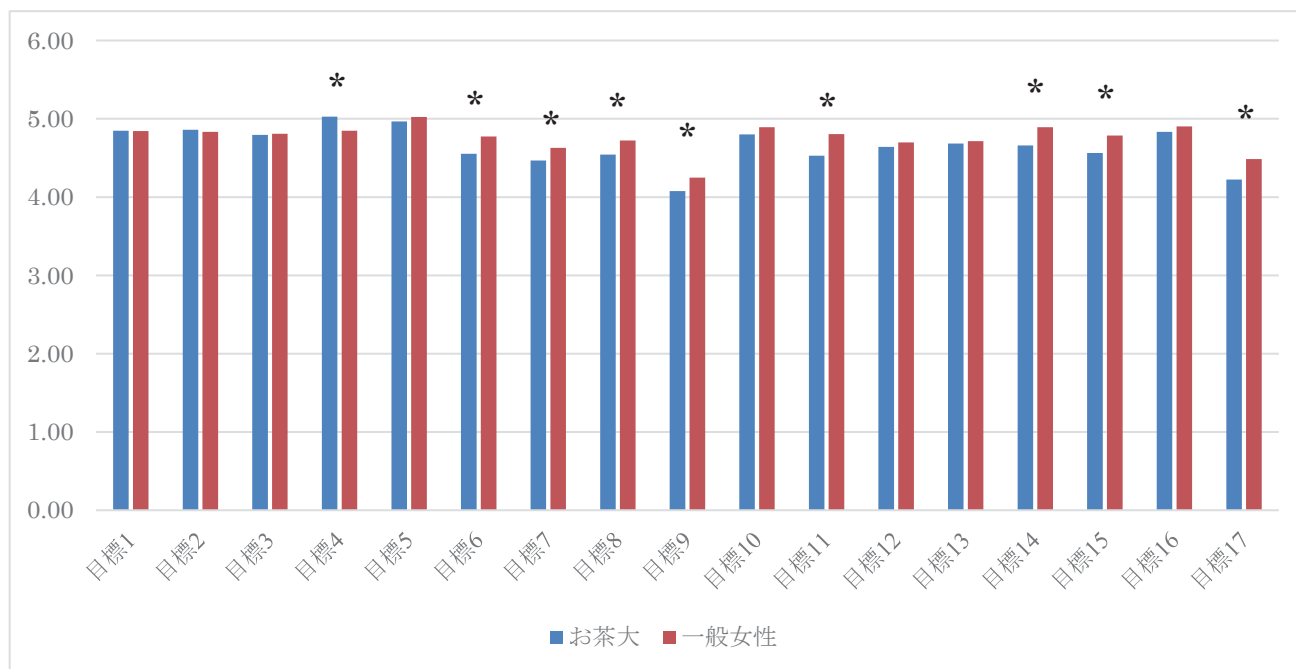
「あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。」に対し 1 : 全く知らない~6 : 非常によく知っている、の 6 件法で回答を求めた。

表の見方 : p.8 参照

② 各目標に対する態度（関心の強さ）

「あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。」

1：全く関心がない～6：非常に関心がある の6件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

<図の見方>p.10 参照。

高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 4	5.0	目標 9	4.1	目標 5	5.0	目標 9	4.2
2	目標 5	5.0	目標 17	4.2	目標 16	4.9	目標 17	4.5
3	目標 2	4.9	目標 7	4.5	目標 14	4.9	目標 7	4.6

お茶大生では、目標 4 に対する関心が全 17 の目標中最も高かった。
 文教育学部の学生は、多くの目標に対する関心が他学部・大学院生より高かった。
 8 つの目標で、回答者の年齢が若い程知識が高かった。

お茶大生 SDGs の各目標に対する関心、属性による比較 (n=388~392)

有効回答数 (人)	全体 {平均値 (SD) }	学部/大学院 {平均値 (SD) }				年齢との 相関 [§]		
		文教育 (n=117~119)	理 (n=57~59)	生活 (n=117)	大学院 (n=79)			
目標 1	392	4.8 (1.0)	5.0 (0.9) ^a	4.6 (1.1) ^a	4.9 (0.9)	4.8 (1.1)	0.04	-0.11*
目標 2	390	4.9 (1.0)	5.1 (0.8) ^a	4.5 (1.1) ^a	4.9 (0.9)	4.8 (1.1)	0.004	-0.08
目標 3	390	4.8 (1.0)	4.9 (0.9)	4.5 (1.1)	4.8 (1)	4.9 (1.1)	0.09	-0.04
目標 4	388	5.0 (1.0)	5.4 (0.8) ^a	4.7 (1.1)	4.9 (1)	4.9 (1.1) ^a	<0.001	-0.10
目標 5	390	5.0 (1.1)	5.3 (0.8) ^{ab}	4.5 (1.4) ^a	4.9 (1.1) ^b	5.0 (1.1)	<0.001	-0.03
目標 6	388	4.6 (1.0)	4.8 (0.9) ^a	4.5 (1.2)	4.4 (1.1) ^a	4.5 (1.1)	0.048	-0.12*
目標 7	390	4.5 (1.1)	4.6 (1.0)	4.6 (1.3)	4.3 (1)	4.5 (1.2)	0.38	-0.04
目標 8	389	4.5 (1.1)	4.7 (1.0)	4.4 (1.2)	4.5 (1)	4.5 (1.3)	0.24	-0.004
目標 9	389	4.1 (1.2)	4.2 (1.0)	4.2 (1.2)	4.0 (1.0)	3.9 (1.5)	0.36	-0.06
目標 10	390	4.8 (1.0)	5.1 (0.9) ^{abc}	4.6 (1.1) ^a	4.7 (0.9) ^b	4.7 (1.1) ^c	<0.001	-0.07
目標 11	389	4.5 (1.1)	4.8 (1.0) ^a	4.4 (1.2)	4.4 (1.0) ^a	4.4 (1.2)	0.01	-0.13*
目標 12	390	4.6 (1.2)	4.9 (0.9) ^a	4.3 (1.3) ^a	4.6 (1.1)	4.5 (1.4)	0.004	-0.16**
目標 13	390	4.7 (1.1)	5.0 (1.0) ^a	4.6 (1.2)	4.6 (1.1)	4.5 (1.3) ^a	0.01	-0.19***
目標 14	390	4.7 (1.1)	4.8 (1.0)	4.5 (1.2)	4.6 (1)	4.6 (1.3)	0.42	-0.12*
目標 15	390	4.6 (1.1)	4.7 (1.0)	4.4 (1.2)	4.5 (1.1)	4.5 (1.3)	0.44	-0.11*
目標 16	389	4.8 (1.0)	5.2 (0.8) ^{abc}	4.6 (1.2) ^a	4.7 (0.9) ^b	4.7 (1.1) ^c	<0.001	-0.14**
目標 17	390	4.2 (1.2)	4.5 (1.1) ^a	3.9 (1.2) ^a	4.2 (1.2)	4.1 (1.4)	0.02	-0.09

*<0.05, **<0.01, ***<0.001

[†]一元配置分散分析

[§]Pearson の相関係数

^{a-c} : 同じ文字を付した群間に有意差あり (p<0.05)

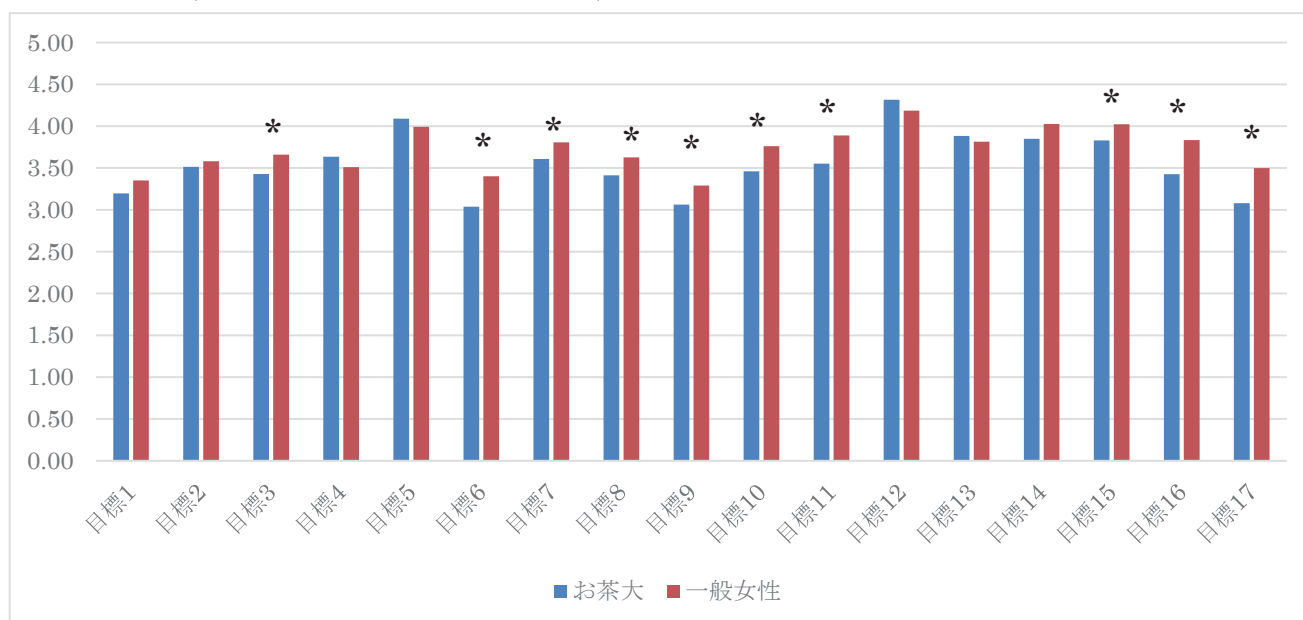
「あなたは、SDGs のそれぞれの目標にどのくらい関心がありますか。」に対し 1 : 全く関心がない～6 : 非常に関心がある、の 6 件法で回答を求めた。

表の見方 : p.8 参照

③ 各目標と自分の行動との関わり

「あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。」

1：全く影響しない～6：非常に強く影響する の6件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

<図の見方>p.10 参照

高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 12	4.3	目標 6	3.0	目標 12	4.2	目標 9	3.3
2	目標 5	4.1	目標 9	3.1	目標 14	4.0	目標 1	3.4
3	目標 13	3.9	目標 17	3.1	目標 15	4.0	目標 6	3.4

お茶大生も一般女性も、目標 12 と自分の行動との関わりを最も大きく捉えていた。

知識・関心と比較して、自分の行動との関わりでは肯定的回答率が低かった。

文教育学部の学生は、多くの目標で、他学部・大学院生より自分の行動との関わりを大きく捉えていた。

12 の目標で、回答者の年齢が若い程知識が高い傾向があった。

お茶大生 自身の行動と SDGs の各目標達成との関連 属性による比較 (n=379~381)

有効回答数 (人)	全体 { 平均値 (SD) }	学部/大学院 { 平均値 (SD) }				p 値 [†]	年齢との相関 [§]	
		文教育 (n=114~115)	理 (n=56~57)	生活 (n=111~112)	大学院 (n=77)			
目標 1	381	3.2 (1.2)	3.5 (1.2) ^a	3.0 (1.3) ^a	3.2 (1.2)	3.0 (1.2)	0.01	-0.11*
目標 2	380	3.5 (1.3)	3.9 (1.2) ^{ab}	3.3 (1.4) ^a	3.6 (1.3)	3.3 (1.4) ^b	0.005	-0.16**
目標 3	379	3.4 (1.3)	3.6 (1.3)	3.1 (1.3)	3.3 (1.4)	3.6 (1.3)	0.06	-0.01
目標 4	380	3.6 (1.3)	4.0 (1.2) ^a	3.5 (1.4)	3.5 (1.3) ^a	3.6 (1.3)	0.02	-0.04
目標 5	379	4.1 (1.3)	4.6 (1.2) ^{abc}	3.6 (1.6) ^a	4.1 (1.3) ^b	3.8 (1.3) ^c	<0.001	-0.15**
目標 6	380	3.0 (1.3)	3.3 (1.2) ^a	2.9 (1.2)	3.0 (1.4)	2.7 (1.3) ^a	0.02	-0.16**
目標 7	380	3.6 (1.4)	3.9 (1.3)	3.8 (1.3)	3.5 (1.5)	3.4 (1.4)	0.1	-0.14**
目標 8	380	3.4 (1.4)	3.6 (1.4)	3.3 (1.2)	3.3 (1.4)	3.5 (1.4)	0.34	-0.005
目標 9	380	3.1 (1.3)	3.1 (1.2)	3.3 (1.2)	3.0 (1.4)	3.1 (1.5)	0.56	0.009
目標 10	380	3.5 (1.3)	3.9 (1.1) ^{ab}	3.1 (1.3) ^a	3.5 (1.3)	3.1 (1.4) ^b	<0.001	-0.19***
目標 11	380	3.6 (1.4)	3.9 (1.2) ^a	3.3 (1.3)	3.6 (1.4)	3.3 (1.5) ^a	0.02	-0.20***
目標 12	379	4.3 (1.4)	4.7 (1.3) ^{ab}	4.1 (1.4) ^a	4.2 (1.4) ^b	4.3 (1.3)	0.01	-0.18***
目標 13	379	3.9 (1.5)	4.3 (1.4) ^a	3.8 (1.3)	3.8 (1.5)	3.7 (1.5) ^a	0.02	-0.20***
目標 14	379	3.9 (1.4)	4.1 (1.3) ^a	3.8 (1.4)	3.8 (1.4)	3.6 (1.3) ^a	0.046	-0.17***
目標 15	380	3.8 (1.4)	4.0 (1.4)	3.9 (1.4)	3.7 (1.4)	3.7 (1.3)	0.38	-0.15**
目標 16	380	3.4 (1.3)	3.8 (1.2) ^a	3.2 (1.3)	3.3 (1.3) ^a	3.3 (1.3)	0.01	-0.12*
目標 17	380	3.1 (1.3)	3.3 (1.2)	2.9 (1.2)	3.1 (1.3)	3.0 (1.4)	0.32	-0.10*

*<0.05, **<0.01, ***<0.001 [†]一元配置分散分析 §Pearson の相関係数 ^{a-c}: 同じ文字を付した群間に有意差あり (p<0.05)

「あなた自身の行動は、SDGs のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。」に対し 1：全く影響しない～6：非常に強く影響する、の 6 件法で回答を求めた。

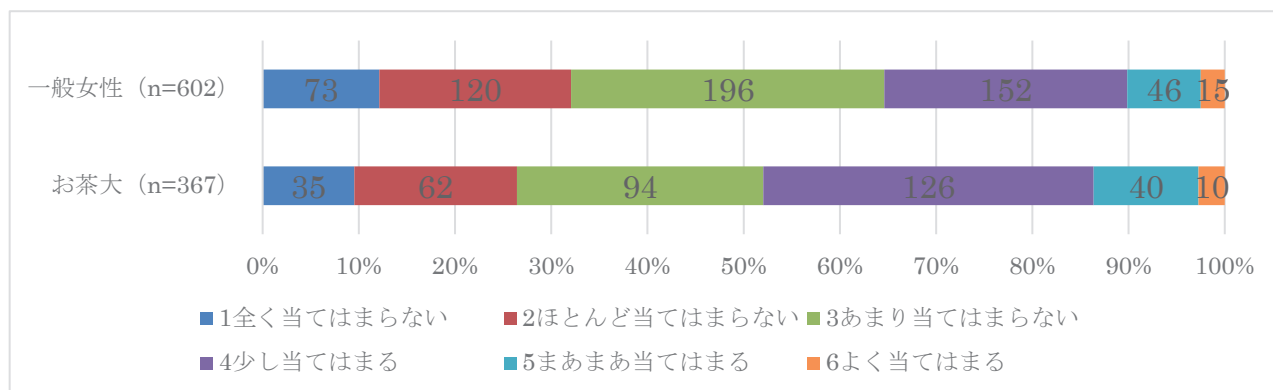
表の見方：p.8 参照

（５）SDGs 達成に向けた行動の実施状況

① SDGs 達成のための行動全般（参画意識）

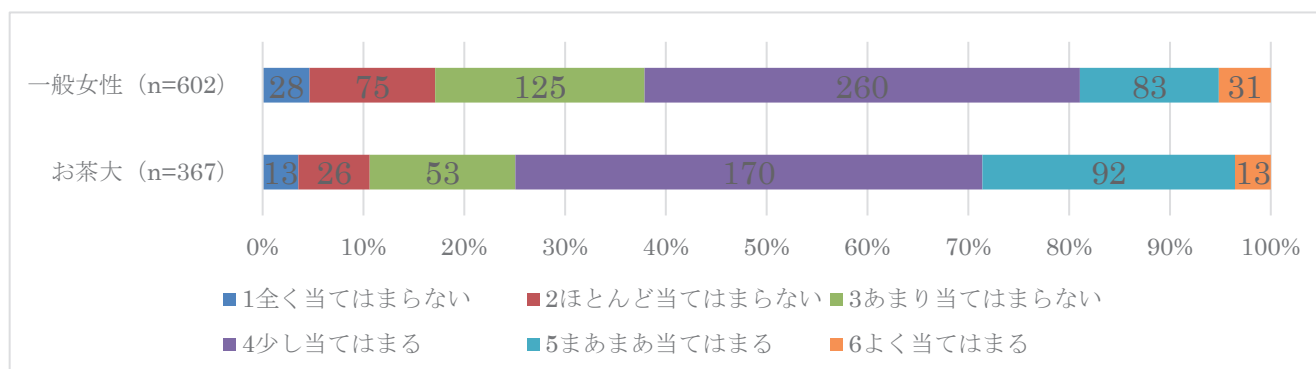
「次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いものの一つを選択してください。」

私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている



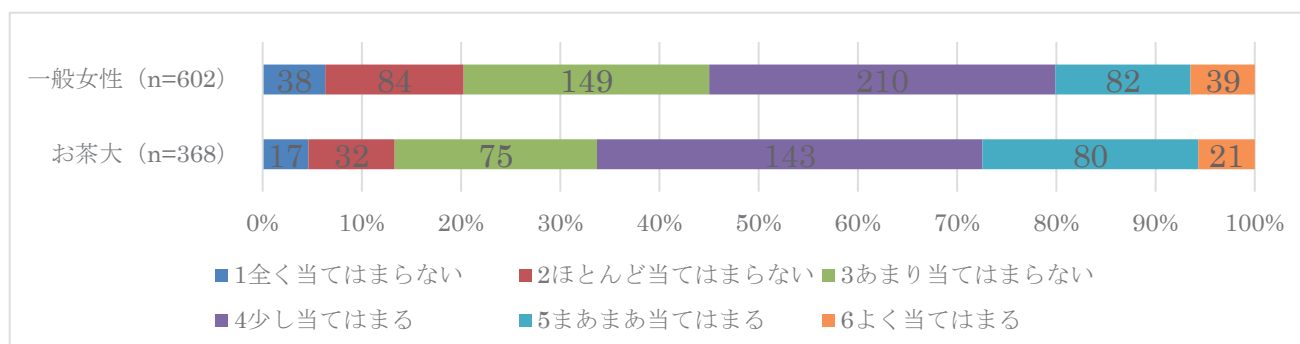
カイ二乗検定, $p=0.009$

私は、環境に配慮した生活行動をとっている



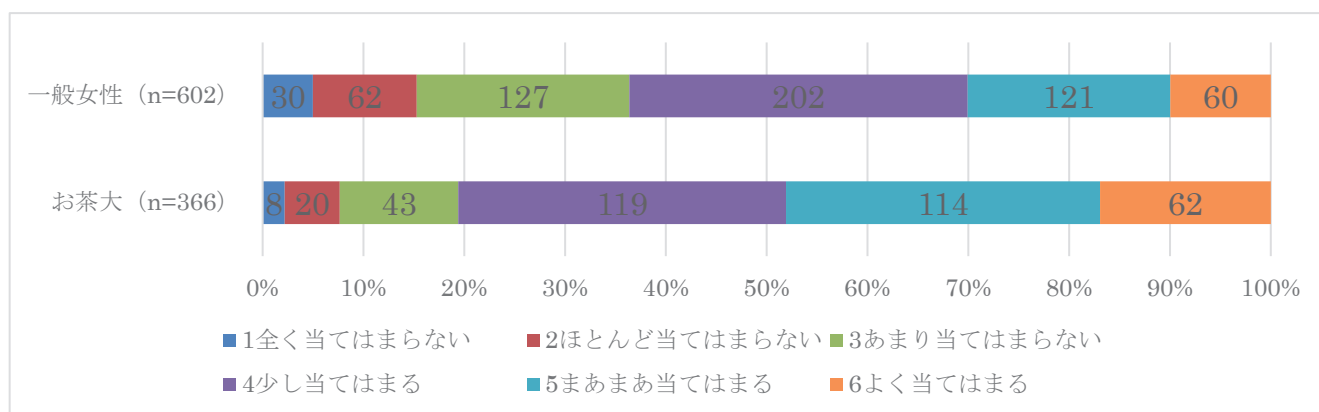
カイ二乗検定, $p<0.001$

私は、環境に配慮した食行動をとっている



カイ二乗検定, $p=0.002$

私は、健康的な食行動をとっている



カイ二乗検定, $p < 0.001$

<図の見方>

n: 解析対象者人数。各設問に無効回答があったため、お茶大生の n は設問ごとに異なる。

カイ二乗検定で $p < 0.05$ であれば、お茶大生と一般女性の回答の分布が異なっている。

お茶大生の 48.0%が、SDGs 目標達成のために具体的な行動をとっていると回答した。
一般女性に比べて、お茶大生は SDGs 目標達成のために具体的な行動をとっている者の割合が高かった。

お茶大生の 6 割以上が、SDGs 達成に関連する環境配慮行動・食行動を実施していた。
一般女性に比べて、お茶大生は生活の中で SDGs 達成に関連する環境配慮行動・食行動を実施している者の割合が高かった。

参画意識と属性との関連

SDGs 達成のために具体的な行動をとっている者に対する属性・SDGs 認知度及び関心度のオッズ比^a (n=424)

	単回帰		重回帰	
	OR	95%CI	OR	95%CI
年齢	0.92	0.85-0.99	-	-
学部/大学院				
文教育	1		-	-
理	0.40	0.20-0.79	-	-
生活科	0.66	0.39-1.12	-	-
大学院	0.50	0.28-0.91	-	-
居住形態				
実家暮らし	1		-	-
一人暮らし	0.68	0.41-1.15	-	-
寮暮らし	0.78	0.47-1.30	-	-
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～5: ゆとりがある)	1.06	0.88-1.28	-	-
SDGs 認知度 (1: 名前を聞いたことがない～5: 全ての目標を詳しく知っている)	3.06	2.09-4.46	1.15	1.04-1.27
SDGs への関心 (1: 全く関心がない～5: 非常に関心がある)	3.51	2.61-4.73	2.00	1.17-3.42

OR: オッズ比 95% CI: 95%信頼区間

^a単回帰では、従属変数 (SDGs 達成のために具体的な行動を実施している) に対する各独立変数 (属性) のオッズ比を強制投入法により示した。重回帰では、従属変数 (SDGs 達成のために具体的な行動を実施している) に対して全ての独立変数 (属性) を投入し、オッズ比を示した。有意な関連が見られた部分は緑色で示した。

<表の見方>

単回帰: 従属変数 (SDGs 達成のために具体的な行動を取っている) と独立変数 (表 1 列目の各項目) 1 対 1 の関連。

重回帰: 従属変数 (SDGs 達成のために具体的な行動を取っている) と 全ての 独立変数 (表 1 列目の各項目) との関連。(=個々の独立変数の影響を考慮した上での関連。) 最終的な結果として使用する。

オッズ比: 独立変数 (表 1 列目の各項目) が 1 上がると (又は 1 と示されるカテゴリーから別のカテゴリーになると)、何倍従属変数が変化しやすいか (例: 「SDGs 達成のために具体的な行動を取っている」になりやすいか) を示したもの。本表では、『SDGs 認知度の回答が 1 上がると、1.15 倍「SDGs 達成のために具体的な行動を取っている」になりやすい』と解釈できる。

95%CI: 95%の確率で OR がとりうる値の範囲。

SDGs 認知度及び SDGs への関心が高いほど、
SDGs 達成のために具体的な行動を実施している者が多かった。

環境に配慮した生活行動をとっている者に対する属性・SDGs 認知度及び関心度の
オッズ比^a (n=424)

	単回帰		重回帰	
	OR	95%CI	OR	95%CI
年齢	0.92	0.86-0.997	-	-
学部/大学院				
文教育	1		-	-
理	0.63	0.29-1.36	-	-
生活科	0.70	0.37-1.33	-	-
大学院	0.48	0.24-0.95	-	-
居住形態				
実家暮らし	1		-	-
一人暮らし	0.50	0.28-0.89	-	-
寮暮らし	0.50	0.28-0.88	-	-
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～5: ゆとりがある)	1.33	1.07-1.65	1.25	0.97-1.60
SDGs 認知度	1.79	1.26-2.55	-	-
SDGs への関心	2.79	2.11-3.69	2.70	2.01-3.63

OR: オッズ比 95% CI: 95%信頼区間

^a単回帰では、従属変数（環境に配慮した生活行動を実施している）に対する各独立変数（属性）のオッズ比を強制投入法により示した。重回帰では、従属変数（環境に配慮した生活行動を実施している）に対して全ての独立変数（属性）を投入し、オッズ比を示した。有意な関連が見られた部分は緑色で示した。

<表の見方>

単回帰：従属変数（環境に配慮した生活行動を取っている）と独立変数（表 1 列目の各項目） 1 対 1 の関連。

重回帰：従属変数（環境に配慮した生活行動を取っている）と全ての独立変数（表 1 列目の各項目）との関連。（＝個々の独立変数の影響を考慮した上での関連。）最終的な結果として使用する。

オッズ比：独立変数（表 1 列目の各項目）が 1 上がると（又は 1 と示されるカテゴリーから別のカテゴリーになると）、何倍従属変数が変化しやすいか（例：「環境に配慮した生活行動を取っている」になりやすいか）を示したもの。本表では、『SDGs への関心の回答が 1 上がると、2.70 倍「環境に配慮した生活行動を取っている」になりやすい』と解釈できる。

95%CI：95%の確率で OR がとりうる値の範囲。

SDGs への関心が高いほど、
環境に配慮した生活行動を実施している者が多かった。

環境に配慮した食行動をとっている者に対する属性・SDGs 認知度及び関心度の
オッズ比^a (n=424)

	単回帰		重回帰	
	OR	95%CI	OR	95%CI
年齢	0.97	0.90-1.04	-	-
学部/大学院				
文教育	1		-	-
理	0.75	0.38-1.48	-	-
生活科	0.91	0.52-1.59	-	-
大学院	1.11	0.59-2.01	-	-
居住形態				
実家暮らし	1		-	-
一人暮らし	0.55	0.32-0.94	-	-
寮暮らし	0.81	0.47-1.39	-	-
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～5: ゆとりがある)	1.03	0.85-1.26	-	-
SDGs 認知度	1.71	1.23-2.38	-	-
SDGs への関心	2.06	1.63-2.61	2.05	1.60-2.62

OR: オッズ比 95% CI: 95%信頼区間

^a単回帰では、従属変数（環境に配慮した食行動を実施している）に対する各独立変数（属性）のオッズ比を強制投入法により示した。重回帰では、従属変数（環境に配慮した食行動を実施している）に対して全ての独立変数（属性）を投入し、オッズ比を示した。有意な関連が見られた部分は緑色で示した。

<表の見方>

単回帰：従属変数（環境に配慮した食行動を取っている）と独立変数（表 1 列目の各項目） 1 対 1 の関連。

重回帰：従属変数（環境に配慮した食行動を取っている）と全ての独立変数（表 1 列目の各項目）との関連。（＝個々の独立変数の影響を考慮した上での関連。）最終的な結果として使用する。

オッズ比：独立変数（表 1 列目の各項目）が 1 上がると（又は 1 と示されるカテゴリーから別のカテゴリーになると）、何倍従属変数が変化しやすいか（例：「環境に配慮した食行動を取っている」になりやすいか）を示したもの。本表では、『SDGs への関心の回答が 1 上がると、2.05 倍「環境に配慮した食行動を取っている」になりやすい』と解釈できる。

95%CI：95%の確率で OR がとりうる値の範囲。

SDGs への関心が高いほど、
環境に配慮した食行動を実施している者が多かった。

健康的な食行動をとっている者に対する属性・SDGs 認知度及び関心度の
オッズ比^a (n=424)

	単回帰		重回帰	
	OR	95%CI	OR	95%CI
年齢	0.94	0.87-1.02	-	-
学部/大学院				
文教育	1		-	-
理	0.61	0.28-1.36	-	-
生活科	1.27	0.61-2.64	-	-
大学院	0.64	0.31-1.31	-	-
居住形態				
実家暮らし	1		1	
一人暮らし	0.35	0.18-0.67	0.45	0.22-0.91
寮暮らし	0.31	0.16-0.58	0.43	0.21-0.86
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～5: ゆとりがある)	1.51	1.19-1.92	1.35	1.03-1.76
SDGs 認知度	1.73	1.18-2.52	-	-
SDGs への関心	1.68	1.32-2.15	1.55	1.19-2.02

OR: オッズ比 95% CI: 95%信頼区間

^a 単回帰では、従属変数（健康的な食行動を実施している）に対する各独立変数（属性）のオッズ比を強制投入法により示した。重回帰では、従属変数（健康的な食行動を実施している）に対して全ての独立変数（属性）を投入し、オッズ比を示した。有意な関連が見られた部分は緑色で示した。

<表の見方>

単回帰：従属変数（健康的な食行動を取っている）と独立変数（表 1 列目の各項目） 1 対 1 の関連。

重回帰：従属変数（健康的な食行動を取っている）と 全ての 独立変数（表 1 列目の各項目）との関連。

（＝個々の独立変数の影響を考慮した上での関連。） 最終的な結果として使用する。

オッズ比：独立変数（表 1 列目の各項目）が 1 上がると（又は 1 と示されるカテゴリーから別のカテゴリーになると）、何倍従属変数が変化しやすいか（例：「健康的な食行動を取っている」になりやすいか）を示したもの。本表では、『実家暮らしに比べて一人暮らしであると、0.45 倍「健康的な食行動を取っている」になりやすい』『暮らし向きの回答が 1 上がると、1.35 倍「健康的な食行動を取っている」になりやすい（＝暮らし向きにゆとりがあるほど、健康的な食行動を取りやすい）』と解釈できる。

95%CI：95%の確率で OR がとりうる値の範囲。

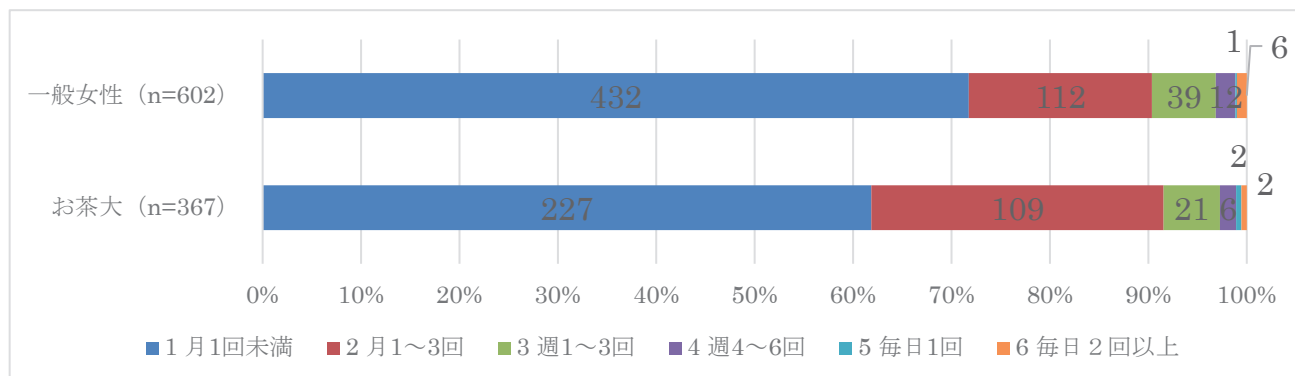
SDGs への関心が高く、暮らしに経済的なゆとりがあるほど、健康的な食行動を実施している者が多かった。一人暮らし・寮暮らしと比較して実家暮らしの者では、健康的な食行動を実施している者が多かった。

② SDGs 達成のための生活行動

「あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去1か月程度のことを振り返ってお答えください。」

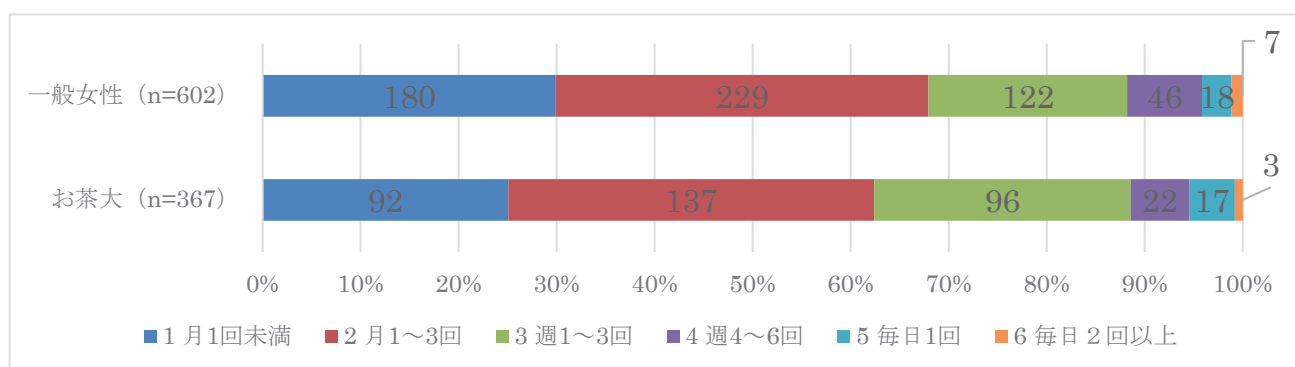
<図の見方>p.17 参照。

買い物の際にレジ袋を購入する



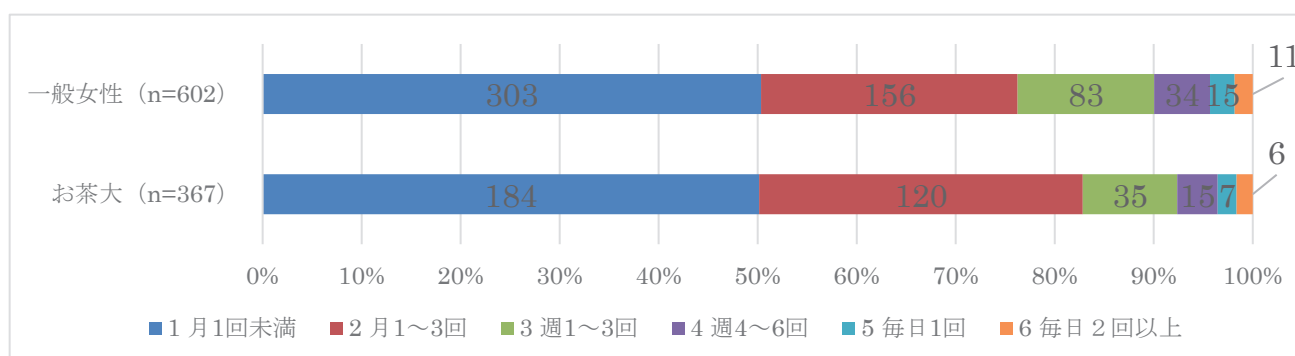
カイ二乗検定, $p=0.004$

ペットボトルを購入する



カイ二乗検定, $p=0.141$

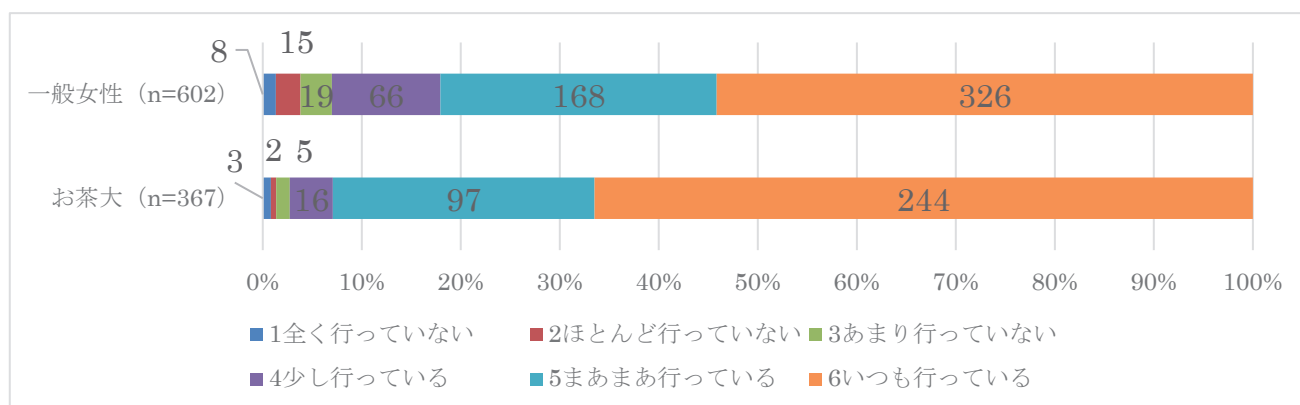
エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する



(FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)

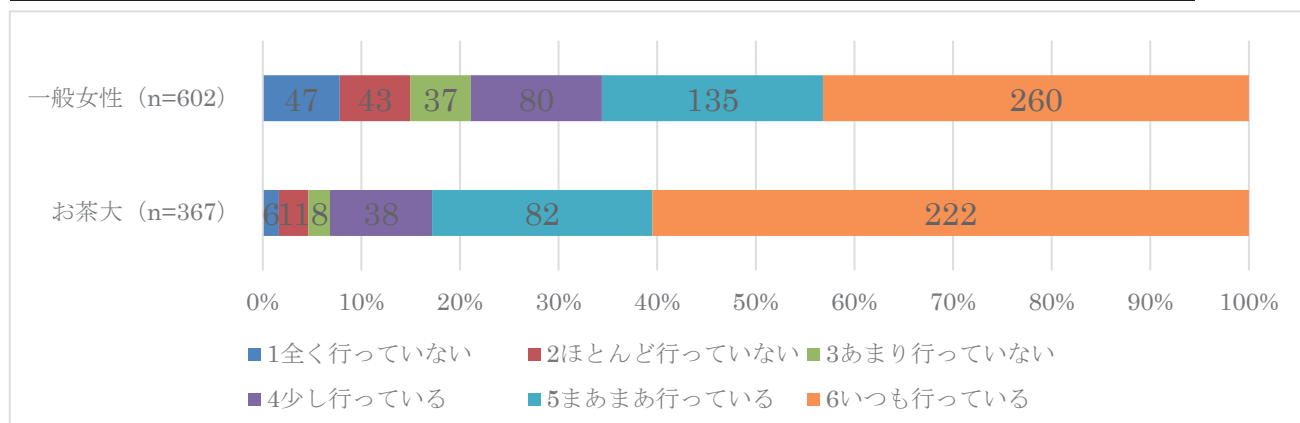
カイ二乗検定, $p=0.128$

地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する



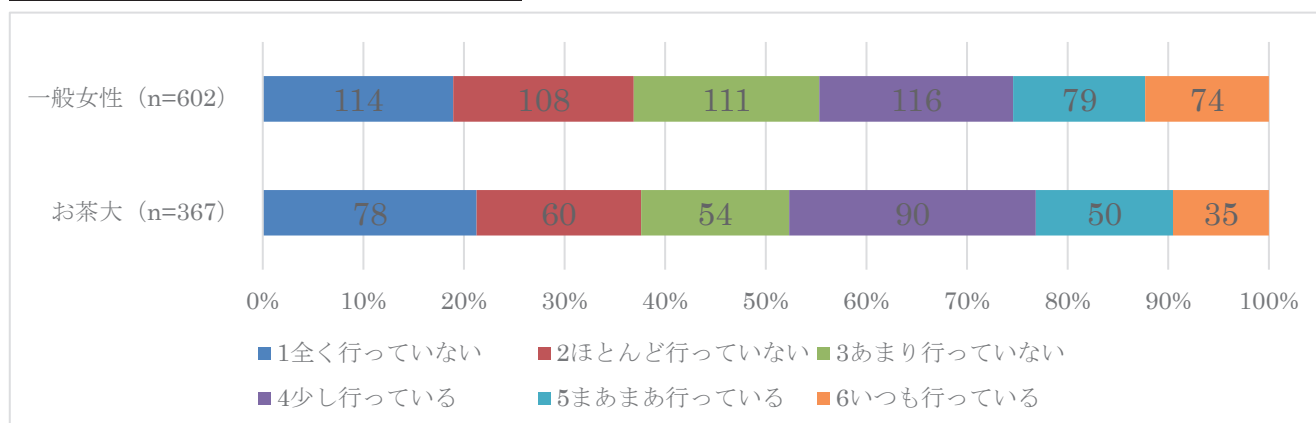
カイ二乗検定, $p < 0.001$

移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う（自家用車やタクシーを使わない）



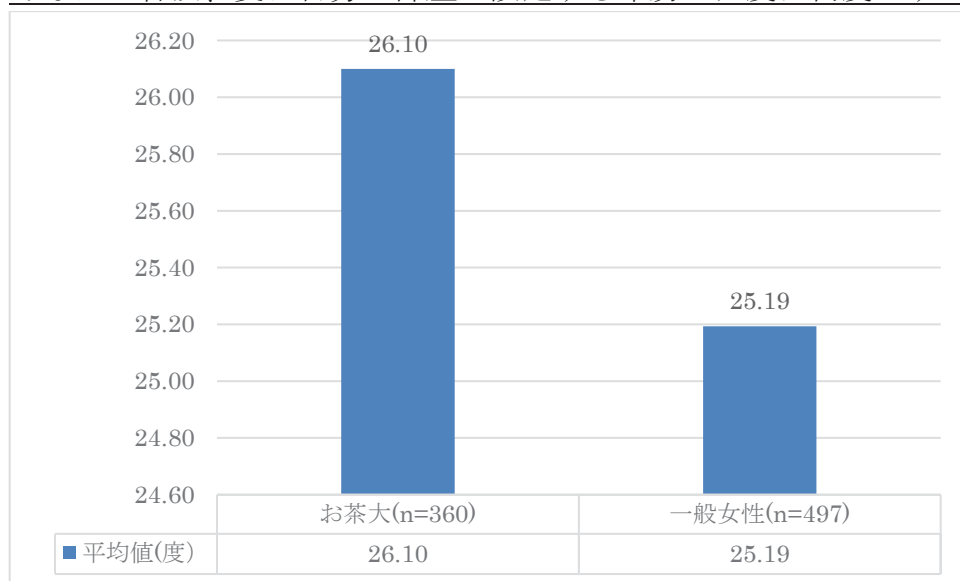
カイ二乗検定, $p < 0.001$

古着や古本などの中古品を購入する



カイ二乗検定, $p = 0.196$

あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？



t 検定、 $p<0.001$ (t 検定で $p<0.05$ =お茶大生と一般女性の回答した温度に有意な差があると解釈できる。)

「自室に冷房がある」と回答した者に対し質問した。

SDGs 達成に関連する行動の実施状況 属性による比較 (n=360~368)

	有効回答 数 (人)	全体 {平均値 (SD) }	学部/大学院 {平均値 (SD) }			p 値†	年齢との		SDGs への 関心との相 関§(r)
			文教育 (n=109~113)	理 (n=51~52)	生活 (n=107~109)		大学院 (n=73~74)	相関§ (r)	
全般的な行動**									
目標達成のための具体的な行動	367	3.3 (1.2)	3.6 (1.3) ^a	2.9 (1.2) ^a	3.3 (1.2)	0.003	-0.19***	0.57***	
環境配慮した生活行動	367	3.9 (1.1)	4.1 (1.0)	3.8 (1.1)	3.9 (1.0)	0.32	-0.16**	0.50***	
環境に配慮した食行動	368	3.8 (1.2)	3.9 (1.1)	3.6 (1.2)	3.9 (1.1)	0.41	-0.10	0.44***	
健康的な食行動	366	4.4 (1.2)	4.4 (1.2)	4.1 (1.3)	4.5 (0.9)	0.33	-0.08	0.31***	
生活行動									
レジ袋の購入§§	367	1.5 (0.8)	1.5 (1.0)	1.5 (0.7)	1.4 (0.6)	0.12	0.14**	-0.17***	
ペットボトルの購入§§	367	2.3 (1.1)	2.3 (1.1)	3.4 (1.2)	2.1 (1.0)	0.1	0.11*	-0.15**	
認証商品の購入§§	367	1.8 (1.1)	1.9 (1.1)	1.5 (0.9)	1.7 (1.0)	0.09	-0.04	0.11*	
ゴミ分別¶	367	5.5 (0.8)	5.6 (0.8)	5.6 (0.7)	5.5 (0.9)	0.78	-0.06	0.17***	
公共交通機関の利用¶	367	5.3 (1.1)	5.3 (1.1)	5.1 (1.3)	5.3 (1.2)	0.63	0.01	-0.01	
中古品の利用¶	367	3.2 (1.6)	3.3 (1.6)	2.8 (1.8)	3.0 (1.5)	0.06	0.08	0.13*	
冷房の温度 (度) ‡	360	26.1 (2.2)	26 (2.1)	26.2 (2.4)	26.2 (2.3)	0.93	-0.03	0.11*	

* < 0.05, ** < 0.01, *** < 0.001 † 一元配置分散分析 § Pearson の相関係数

^a : 同じ文字を付した群間に有意差あり (p < 0.05)

** 「次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。」に対し 1 : 全くあてはまらない~6 : よく当てはまる、の 6 件法で回答を求めた。

§§ 1 : 月 1 回未満~6 : 毎日 2 回以上の 6 件法で回答を求めた。

‡ 「あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？」に対し、数値で回答を求めた。

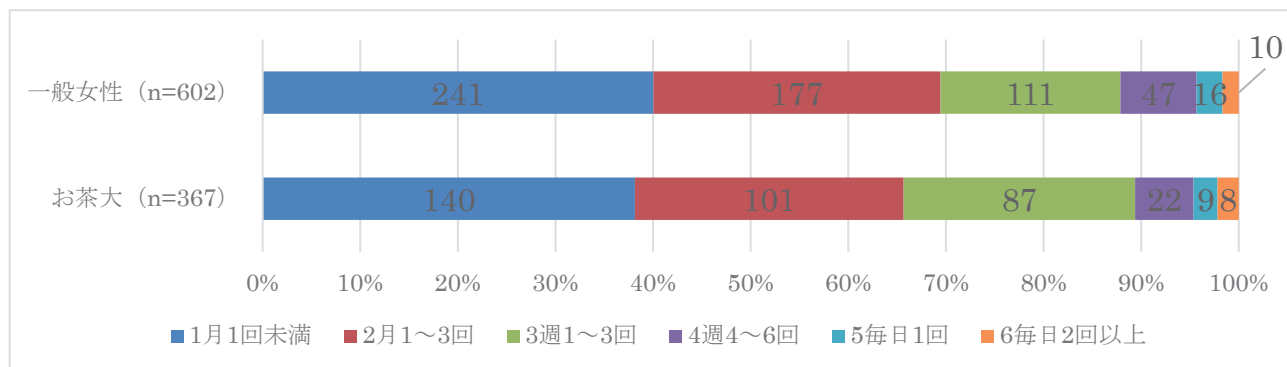
表の見方 : p.8 参照

11 項目中 10 項目で、SDGs への関心が高いほど、SDGs 達成に関連する行動を実施していた。

③ SDGs 達成のための食行動

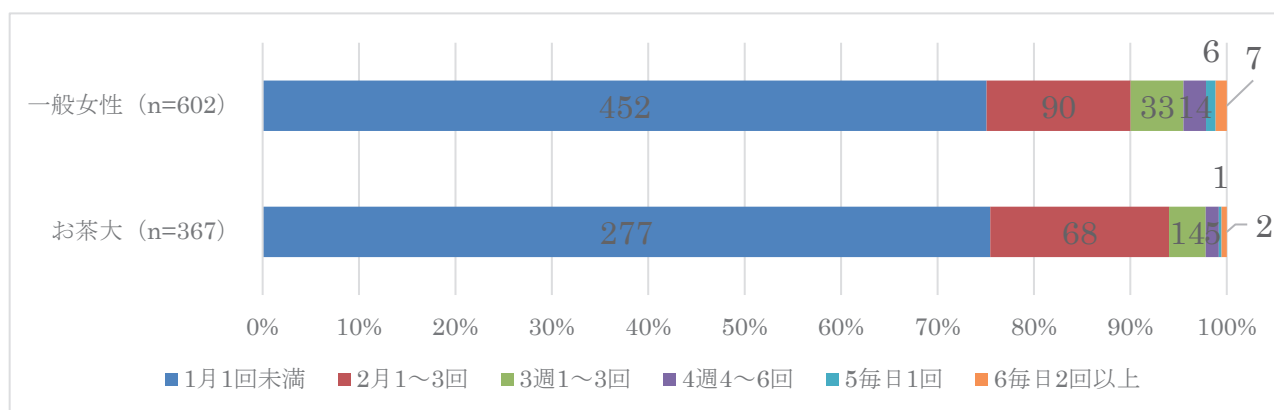
<図の見方>p.17 参照

地産地消に配慮した食品を購入・注文する（例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等）



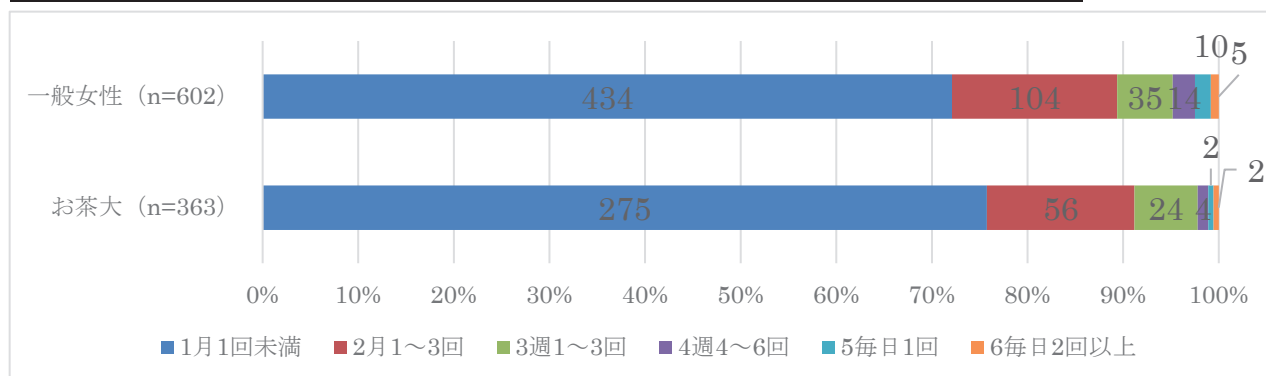
カイ二乗検定, $p=0.416$

フェアトレード食品を購入する



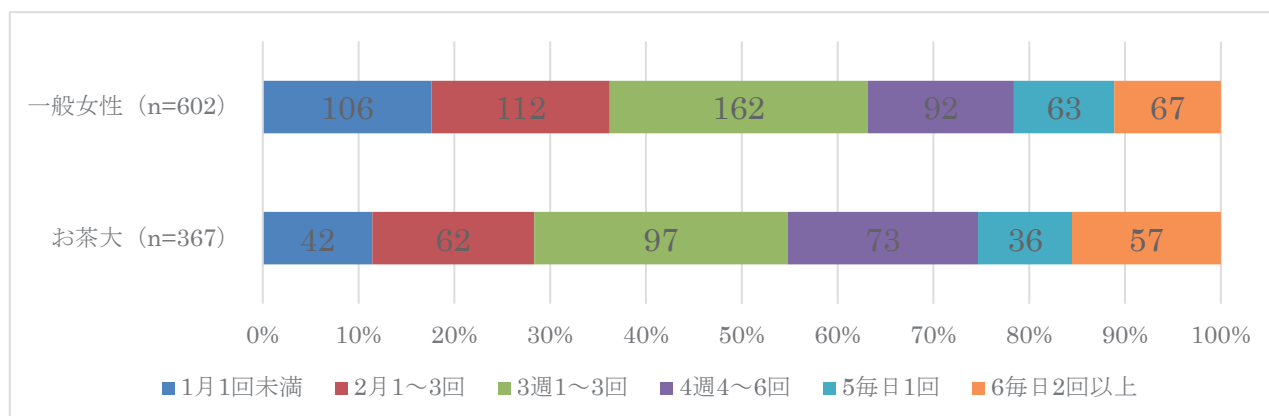
カイ二乗検定, $p=0.238$

動物福祉に配慮した食品を購入する {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}



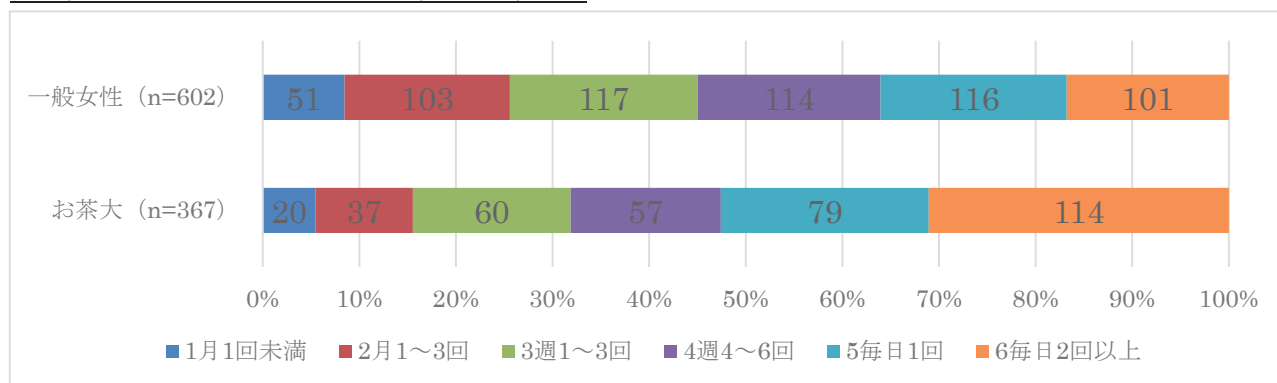
カイ二乗検定, $p=0.367$

食品購入時に「てまえどり」をする（賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること）



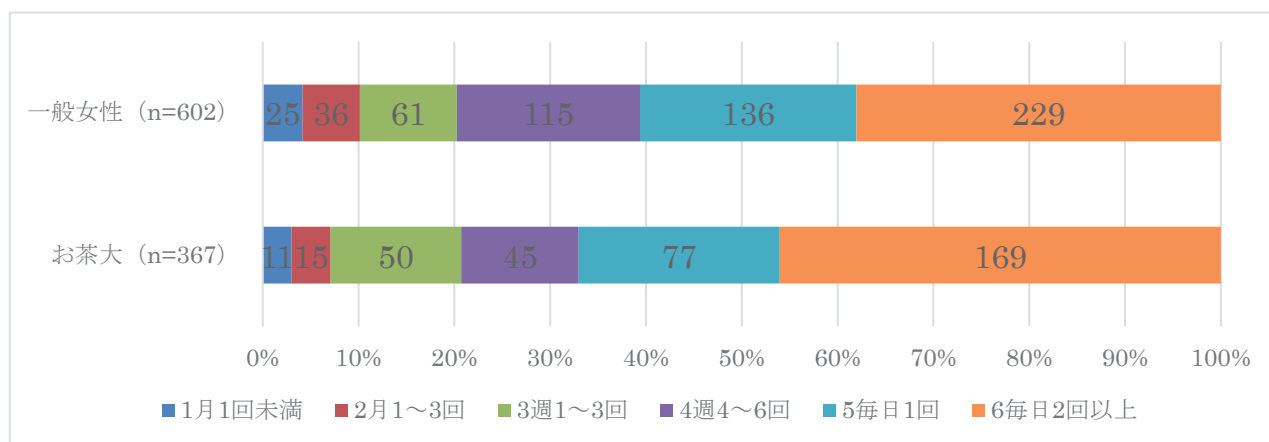
カイ二乗検定, $p=0.029$

主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる



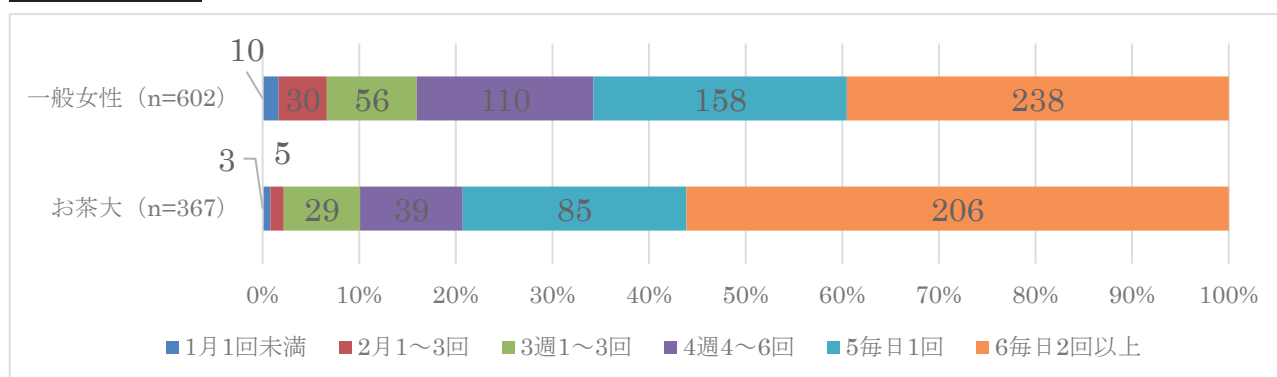
カイ二乗検定, $p<0.001$

家庭で調理されたものを食べる。（家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます）



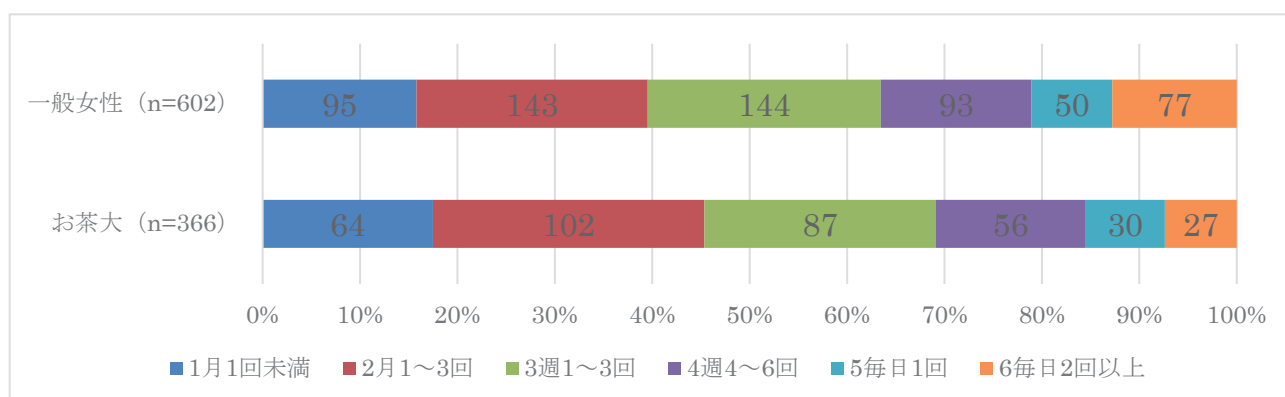
カイ二乗検定, $p=0.010$

野菜を食べる



カイ二乗検定, $p < 0.001$

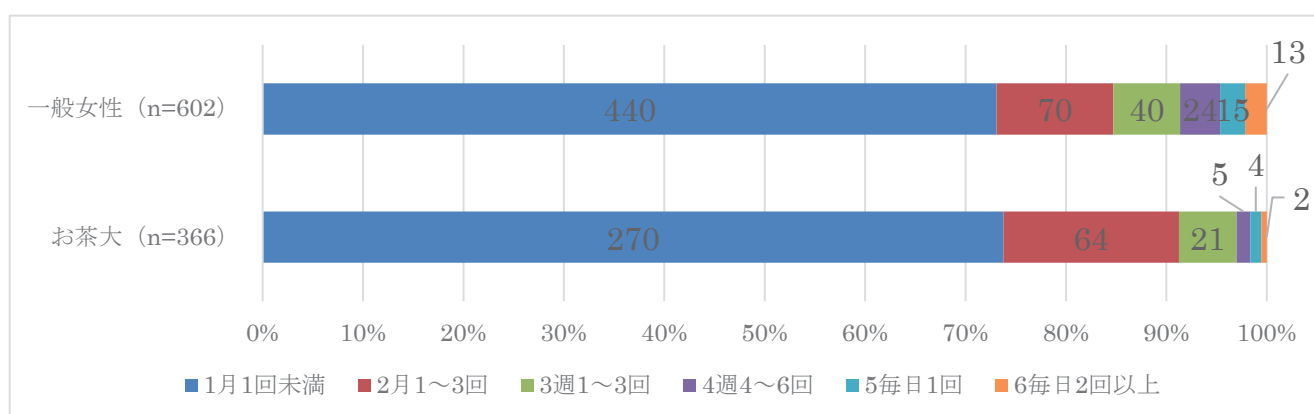
牛肉を食べる



カイ二乗検定, $p = 0.149$

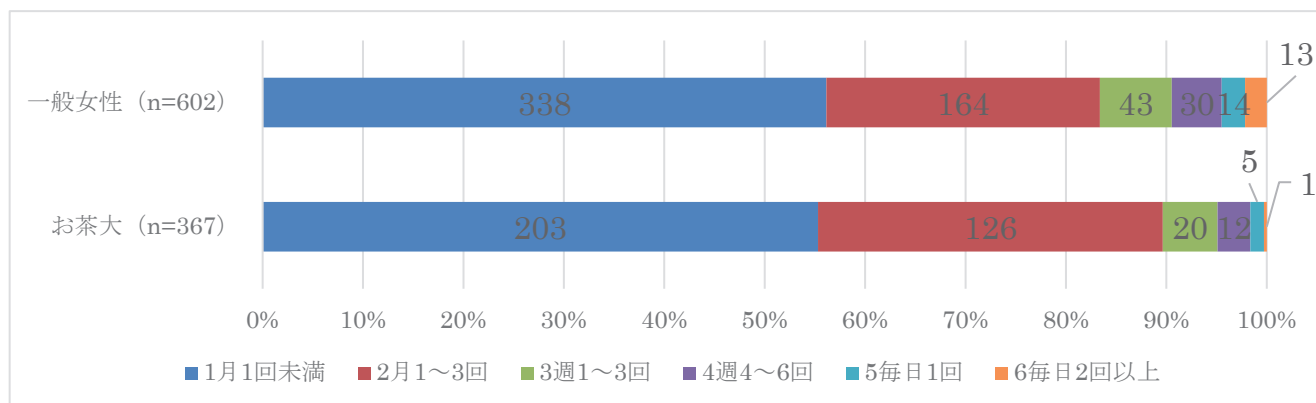
※データ確認済み

代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)



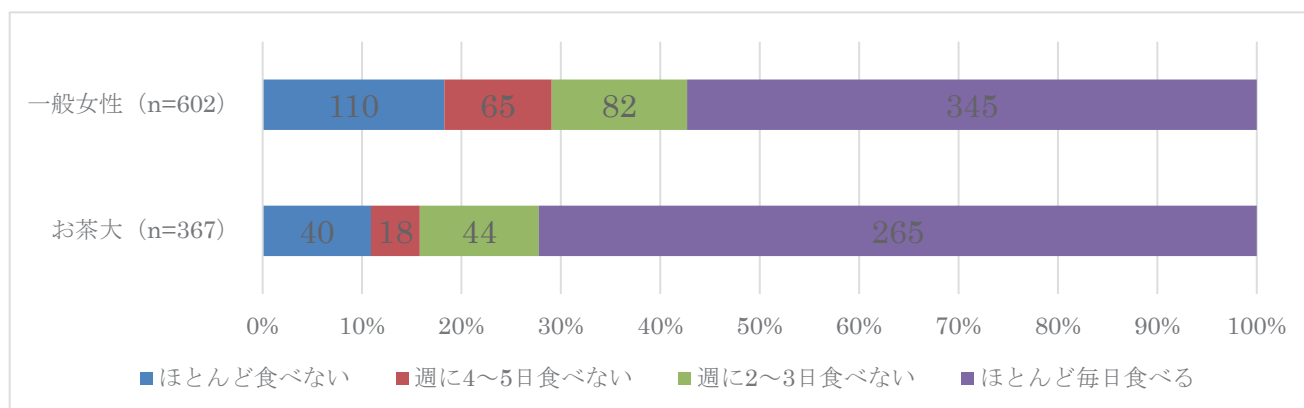
カイ二乗検定, $p = 0.004$

本来食べられる食品を廃棄する。(例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けずに捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)



カイ二乗検定, $p=0.022$

あなたはふだん、朝食を食べますか



カイ二乗検定, $p<0.001$

SDGs 達成に関連する生活行動の実施状況 属性による比較 (n=363~367)

有効回答数 (人)	全体 {平均値 (SD) }	学部/大学院 {平均値 (SD) }			p 値†	年齢と の相関§ (r)	SDGs への関心 との相関§ (r)
		文教育 (n=109~113)	理 (n=51~52)	生活 (n=107~109)			
食行動§§							
地産地消	367	2.2 (1.1)	2.1 (1.3)	2.0 (1.1)	0.68	-0.07	0.15**
フェアトレード	367	1.4 (0.8)	1.3 (0.6)	1.3 (0.7)	0.75	-0.11*	0.17***
動物福祉	363	1.4 (0.8)	1.3 (0.8)	1.3 (0.7)	0.78	-0.09	0.16***
てまえどり	367	3.6 (1.6)	2.9 (1.5) ^a	3.4 (1.5)	0.04	0.07	0.07
バランスの良い食事	367	4.4 (1.5)	4.2 (1.8)	4.5 (1.4)	0.54	-0.07	0.12*
外食	367	2.6 (1.1)	2.7 (1.3)	2.5 (1.1)	0.83	-0.008	-0.10
中食	366	3.1 (1.4)	3.0 (1.5)	3.0 (1.3)	0.33	-0.003	-0.16**
家庭で調理された食品	367	4.8 (1.4)	4.9 (1.5)	5.1 (1.3) ^a	0.07	-0.13*	0.18***
野菜	367	5.3 (1.1)	5.1 (1.1)	5.3 (1)	0.36	-0.11*	0.23***
牛肉	366	2.9 (1.5)	3.1 (1.4)	2.8 (1.4)	0.7	0.01	-0.02
代替肉	366	1.5 (1.0)	1.3 (0.7)	1.4 (0.9)	0.4	0.02	0.15**
食品廃棄	367	1.6 (0.9)	1.5 (0.6)	1.7 (0.9)	0.25	0.06	-0.14**
朝食¶¶	367	3.4 (1.1)	3.1 (1.3) ^a	3.6 (0.8) ^a	0.02	-0.14**	0.09

* < 0.05, ** < 0.01, *** < 0.001 a: 同じ文字を付した群間に有意差あり (p < 0.05) † 一元配置分散分析 § Pearson の相関係数

‡ 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。」に対し 1 : 全くあてはまらない ~ 6 : よく当てはまる、の 6 件法で回答を求めた。

§§ 1 : 月 1 回未満 ~ 6 : 毎日 2 回以上の 6 件法で回答を求めた。

‡ 「あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？」に対し、数値で回答を求めた。

¶¶ 「あなたはふだん、朝食を食べますか。」に対し、1 : ほとんど食べない ~ 4 : ほとんど毎日食べる、の 4 件法で回答を求めた。

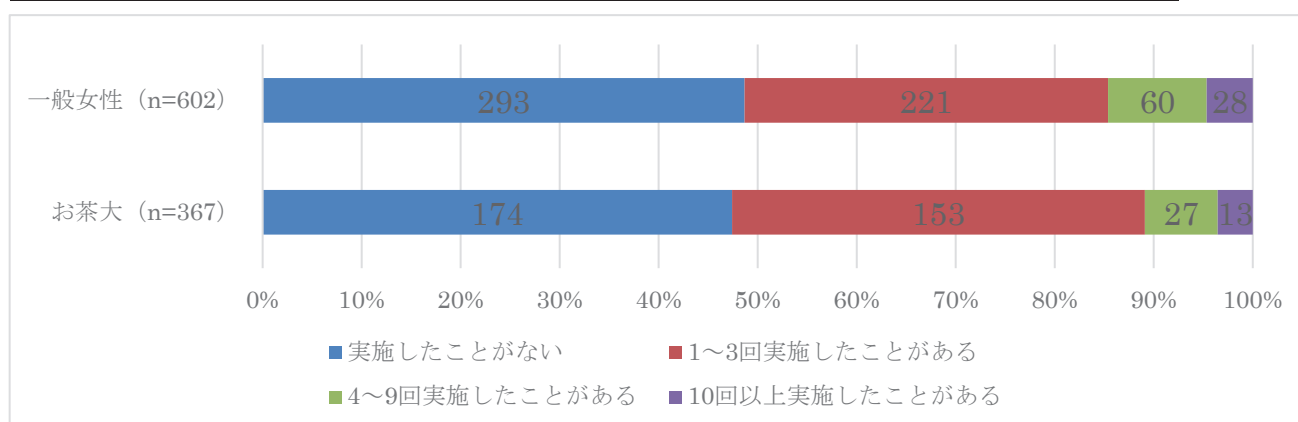
表の見方 : p.8 参照

13 項目中 9 項目で、SDGs への関心が高いほど、SDGs 達成に関連する生活行動を実施していた。

④ SDGs 達成のためのその他の行動

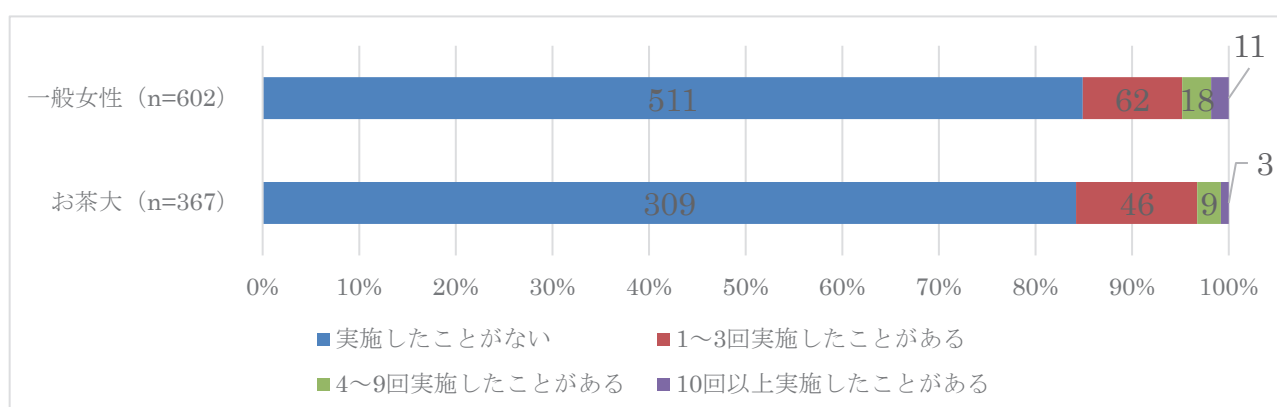
＜図の見方＞p.17 参照

学校の授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。（例：ゴミ拾い活動）



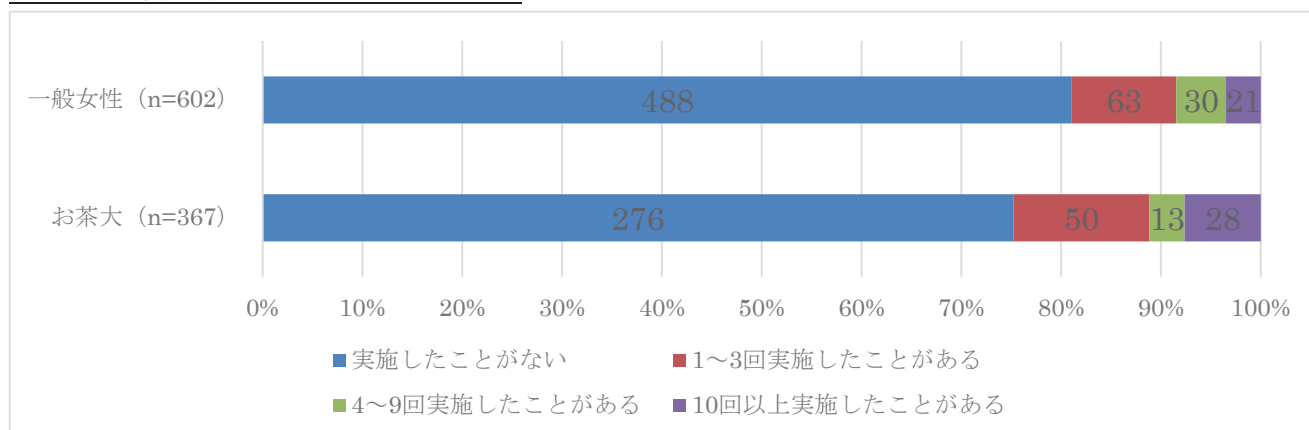
カイ二乗検定, $p=0.269$

学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信



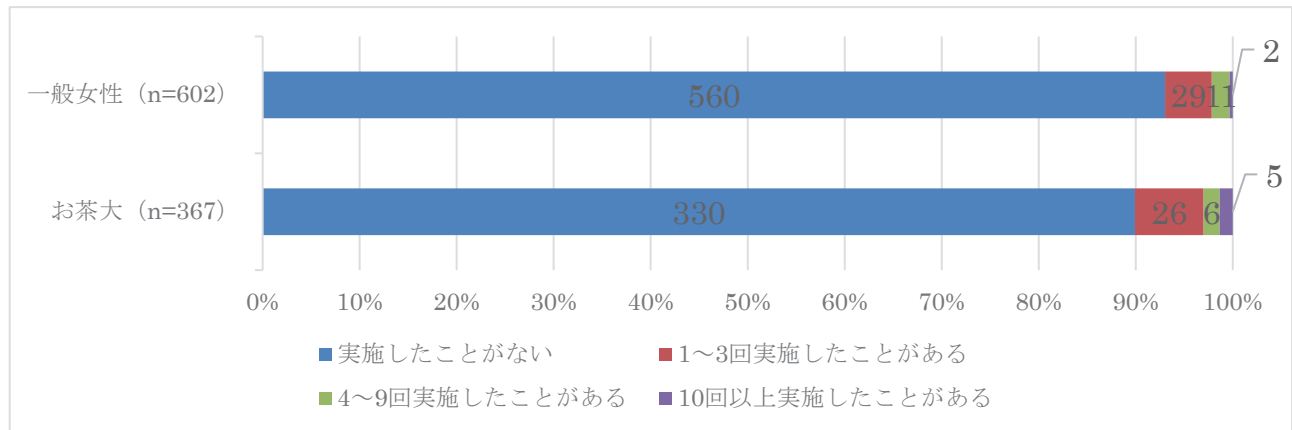
カイ二乗検定, $p=0.410$

国内の学習支援のボランティア活動



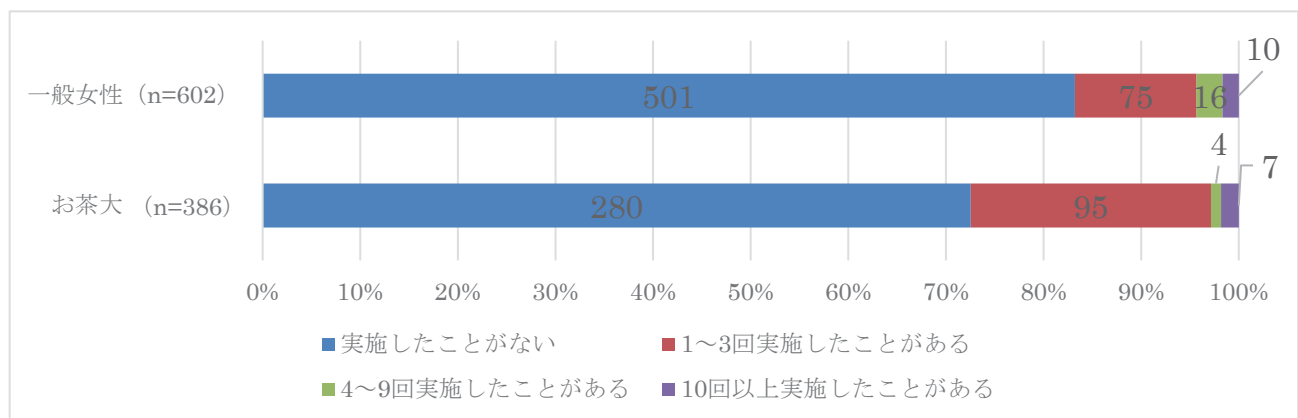
カイ二乗検定, $p=0.008$

海外の教育支援のボランティア活動



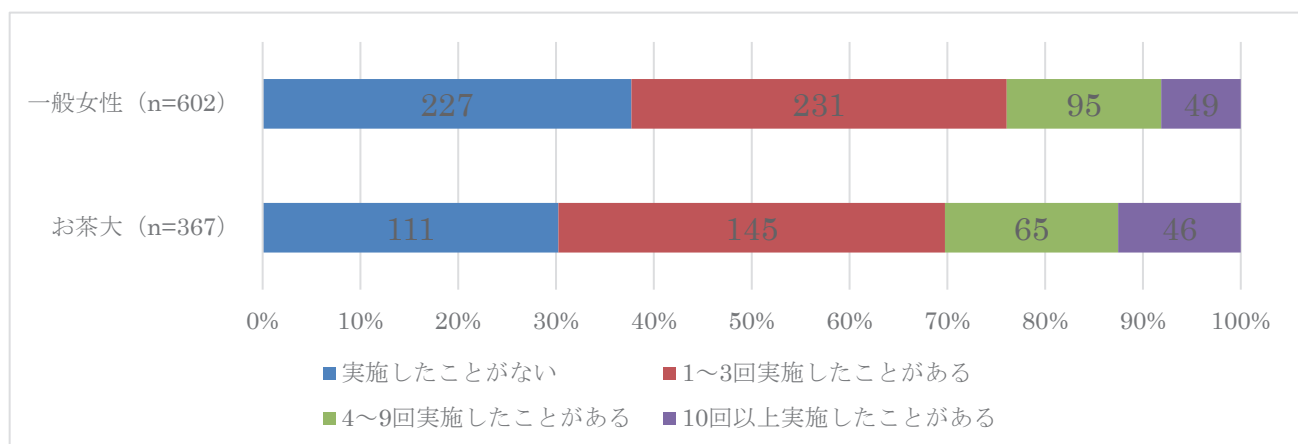
カイ二乗検定, $p=0.127$

食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加



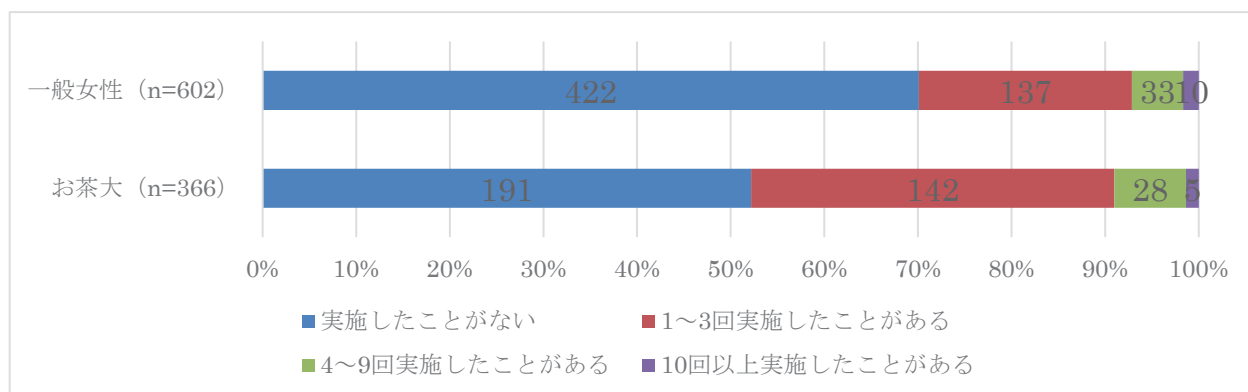
カイ二乗検定, $p=0.004$

募金活動への協力（例：教育、紛争、災害、福祉など）



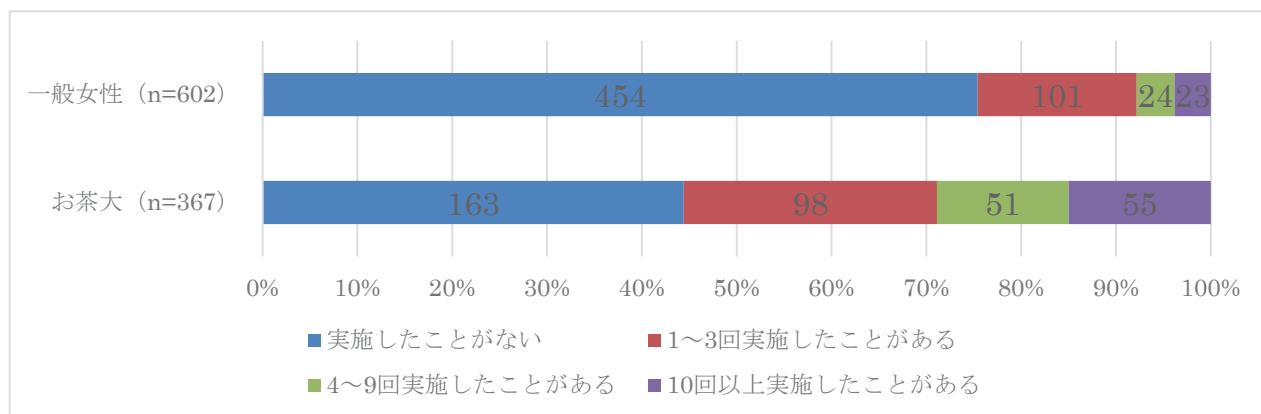
カイ二乗検定, $p=0.033$

使わなくなった学校用具の寄付（国内/海外問わず）（例：ランドセル等）



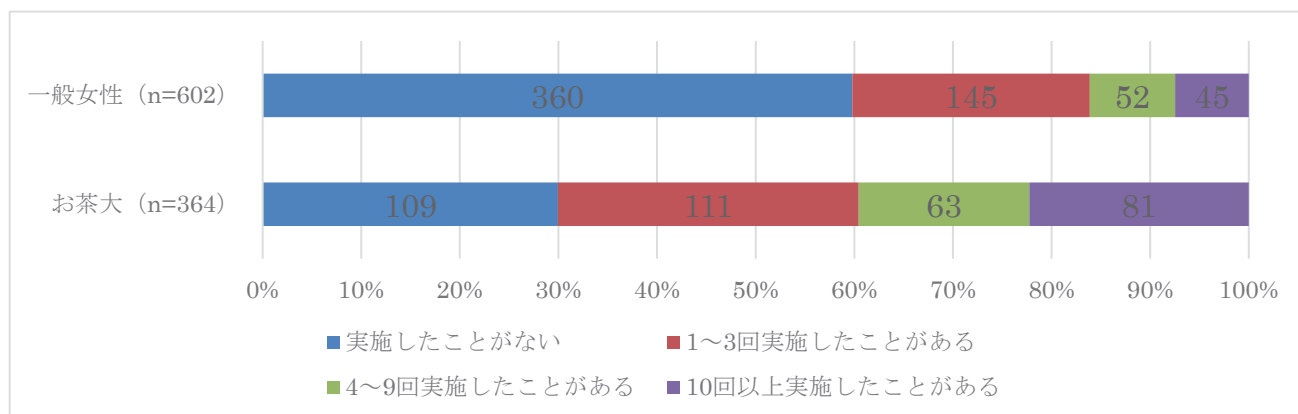
カイ二乗検定, $p < 0.001$

日本や世界の教育問題について他者との意見交換



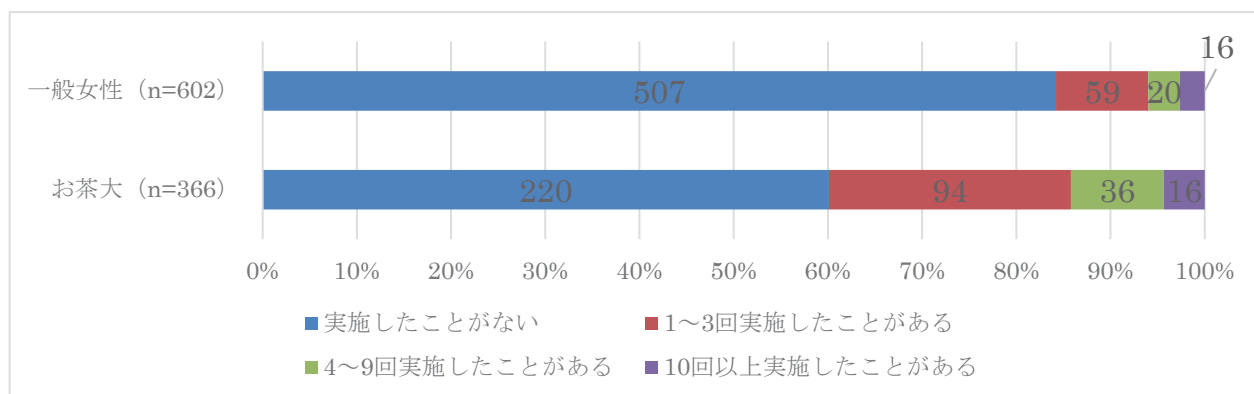
カイ二乗検定, $p < 0.001$

教育に関する話題について、主体的な情報収集（新聞やニュースから）



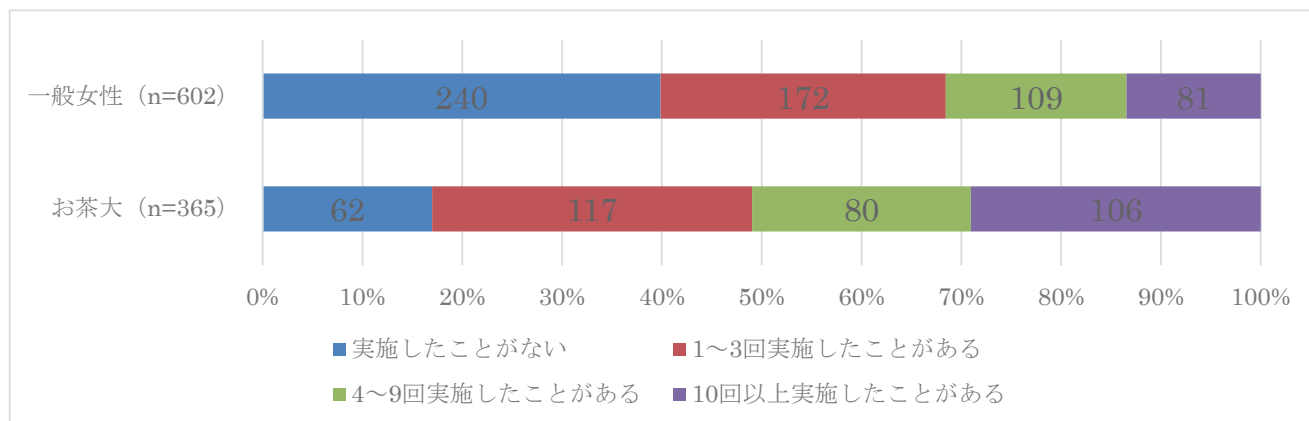
カイ二乗検定, $p < 0.001$

SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加



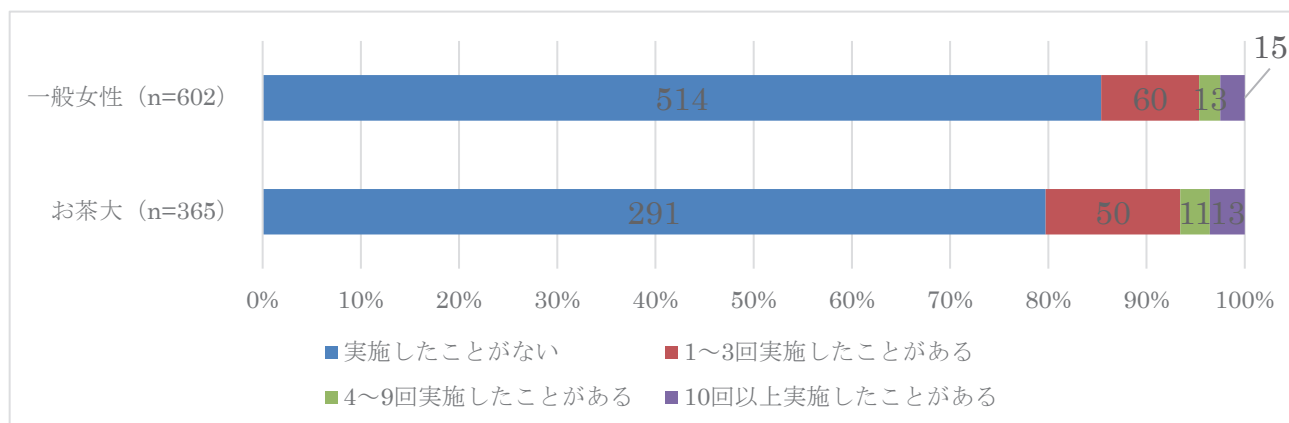
カイ二乗検定, $p < 0.001$

防災に関わる体験学習やイベントへの参加（例：避難訓練）



カイ二乗検定, $p < 0.001$

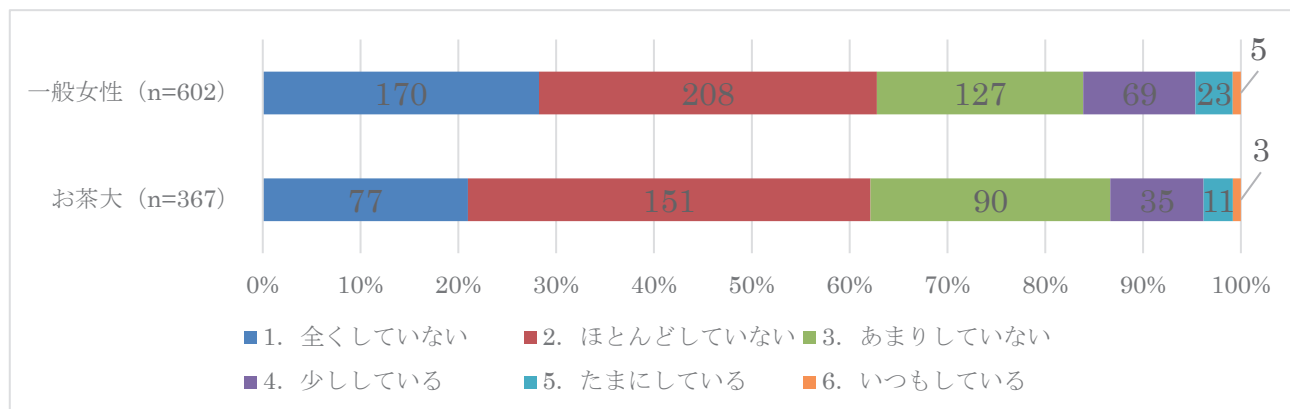
いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援



カイ二乗検定, $p = 0.156$

⑤ ジェンダーに関する発言

あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)



カイ二乗検定, $p=0.081$

SDGs 達成に関連する ESD 行動等の実施状況 属性による比較 (n=364~367) **

	有効回答数 (人)	全体 { 平均値 (SD) }	学部/大学院 { 平均値 (SD) }				p 値†	年齢との 相関§	SDGs への 関心と 相関§ (r)
			文教育 (n=110~112)	理 (n=51~52)	生活 (n=108~109)	大学院 (n=74)			
環境保全ボランティアへ参加	367	1.7 (0.8)	1.8 (0.8)	1.6 (0.7)	1.6 (0.7)	1.6 (0.7)	0.03	-0.10	0.16**
気候変動メッセージ発信	367	1.2 (0.5)	1.3 (0.7) ^a	1.1 (0.3) ^a	1.1 (0.4)	1.2 (0.5)	0.02	-0.13*	0.21***
国内学習支援ボランティアへ参加	367	1.4 (0.9)	1.6 (1.1)	1.3 (0.8)	1.3 (0.8)	1.4 (0.7)	0.054	0.04	0.21***
海外教育支援ボランティアへ参加	367	1.1 (0.5)	1.2 (0.6)	1.1 (0.5)	1.1 (0.3)	1.2 (0.6)	0.1	0.08	0.18***
食品ロス削減活動の実施	366	1.3 (0.6)	1.3 (0.6)	1.1 (0.3) ^a	1.3 (0.6) ^a	1.2 (0.6)	0.03	-0.11*	0.20***
募金	367	2.1 (1.0)	2.3 (1.1) ^a	2.2 (0.9)	2.0 (0.9) ^a	2.1 (1)	0.01	-0.09	0.25***
学校用具の寄付	366	1.6 (0.7)	1.7 (0.7)	1.6 (0.7)	1.5 (0.6)	1.6 (0.8)	0.26	-0.02	0.06
教育問題に関する意見交換	367	2.0 (1.1)	2.3 (1.1) ^{abc}	1.7 (1.1) ^a	1.8 (1.0) ^b	1.9 (1.1) ^c	<0.001	-0.02	0.27***
教育に関する情報収集	364	2.3 (1.1)	2.6 (1.1) ^a	2.2 (1.2)	2.1 (1.1) ^a	2.3 (1.2)	0.002	-0.02	0.31***
セミナー等イベントへの参加	366	1.6 (0.8)	1.8 (1.0) ^{ab}	1.4 (0.7) ^a	1.5 (0.8)	1.5 (0.8) ^b	0.002	-0.12*	0.43***
防災イベントへの参加	365	2.6 (1.1)	2.7 (1.1)	2.8 (1.1)	2.6 (1.1)	2.3 (1)	0.04	-0.14**	0.17***
学習困難者支援	365	1.3 (0.7)	1.3 (0.7)	1.2 (0.4)	1.3 (0.6)	1.4 (0.8)	0.26	0.03	0.19***
ジェンダーに関する発言¶	367	2.4 (1.1)	2.4 (1.0)	2.0 (1.0) ^a	2.4 (1.0)	2.5 (1.2) ^a	0.03	-0.02	-0.11*

* < 0.05, ** < 0.01, *** < 0.001 a~c: 同じ文字を付した群間に有意差あり (p < 0.05) † 一元配置分散分析 § Pearson の相関係数

† 「あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。」に対し 1 : 実施したことがない ~ 4 : 10 回以上実施したことがある、の 4 件法で回答を求めた。

¶ 「あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。」に対し、1 : 全くしていない ~ 6 : いつもしている、の 6 件法で回答を求めた。

表の見方 : p.8 参照

13 項目中 12 項目で、SDGs への関心が高いほど、SDGs 達成に関連する ESD 行動等を実施していた。

（６）SDGs に関してお茶大に求めること（抜粋）

あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

●SDGs に関する知識を得る機会

- ・ SDGs がテーマの授業があると話し合いの時間などを取ることができて勉強になるのではないかと思います。
- ・ SDGs 関連の授業や実習を増やしていくと、より私たちみんなが意識していくのではないかと思います。特に、社会科見学のように、17 のゴールに向けて進んだ取り組みを行っている企業や自治体などに実際にお話を伺う機会を設けたりすると関心が高まってよいのではないのでしょうか。
- ・ 学生や人々が SDGs の内容について学ぶ機会はそれなりに提供されていると思うので、学ぶだけではなく、実際に社会が変化するためにできるアクションについて学んだり、企業とともに取り組める講義などがあると良いと思います。
- ・ 幅広い年代に向けて教育を行う機関として、年齢に合わせた適切な SDGs 教育を実施すること。
- ・ 正直やろうと思っても何から始めればいいのかわからないので、SDGs に関係する各所にどう言う観点で SDGs に貢献しているのか、私たちは何をすべきかを書いてほしい。

●教育・生活環境の充実

- ・ 図書館を 24 時間オープンにするなど、自習施設を充実させてほしい。夜も勉強しようとなると、音羽館居住者のみ音羽館の自習室が使える状況なので不平等だと感じる。
また、日本国内の別の大学や留学先にある図書館や学習施設とのギャップに驚いた。
- ・ ウォーターサーバーまたは浄水が出るものを設置して欲しい。 ペットボトルを買わなくてよくなるので。
- ・ 水筒に水を入れられる給水器の普及。
- ・ カウンセリングの充実。メンタルヘルスケアの調査だけでは不十分だと思う。
- ・ プラスチック製の製品や歯ブラシなど、リサイクルが行われているものの、あまりされていないものがある気がするため、リサイクル用回収コーナーなどがあったらうれしいです。服や家具など、引っ越し時期に廃棄されがちなものをお茶大生間でやりとりできるウェブサイトなどがあったら、よいかもしれません。寮では行われていました。また、既に行われているかもしれませんが、学食などでの大豆ミートを使った食品、環境に配慮した食事の提供などがあったら面白いと思います。
- ・ 空調・照明等の設備に無駄、必要のないところに多くあって必要のあるところに十分に行き届いていない等の問題があるように思えるので、改善してほしいです。設定温度等も検討していただきたいとおもいます。
- ・ 古着・古本の売り場などがあれば、ありがたいです。
- ・ 洋服や本のフリーマーケットを開催して欲しい。
- ・ 食堂でテイクアウトするときに、お弁当箱の持参を推奨する。
- ・ 生協でのフェアトレード商品の販売、難民支援などの募金箱の設置、学食での支援食（この間販売していた汁なしうどんのように売上の一部が寄付されるメニュー）の恒常販売。
- ・ 性別や身体障害に関わらず快適に使えるトイレの整備。
- ・ 代替肉を利用した食事や、環境に配慮した素材の文房具などを販売する。

- ・ 不必要な書類をなくしてほしい。(授業関連プリント、ポスターちらしなどを全て含めて)
- ・ ゴミ捨てのルールがゴミ箱ごとに違うのが気になります。統一してください。

●イベント等の開催

- ・ ジェンダーに関する意見を、幅広く全員が発言させてもらう会議などを開いてほしい！
- ・ 何かしたいが何をしたら良いのか分からない。その為、「これをしてたら SDGs に貢献する」というイベントやものを沢山設置して欲しい。手軽に SDGs 貢献できる環境づくりをして欲しい。
- ・ 学部を超えたディスカッションやイベント参加の機会があること。

●学生主体の取り組み

- ・ SDGs への取り組みが学生主体で積極的に進められること。
- ・ ごみ問題に関心があり、実際に研究しているので、学内(及び地域)でお茶大発のそうした活動をした
いと考えている。
- ・ 学生の意志さへあれば SDGs な行動ができる環境の整備。
- ・ 学生を巻き込んで行う活動を企画して欲しい。
- ・ 連携している企業も学生も一体となって SDGs に取り組める環境づくり。

●個々の目標達成に向けた取り組み

- ・ お茶大はジェンダーに力を入れているイメージがあるので引き続きその分野を先導するのがよいのではないかと思う。
- ・ ジェンダー平等関連に関しては日本のどの機関、団体よりも積極的に進めて欲しい。
または進める機関でありたい。
- ・ 女子大としてジェンダー平等や男女平等に社会で活躍できる機会の獲得に力を入れてほしい。また、
理学・生活科学・文教育という 3 要素が組み合わさった総合大学だからこそ、これらの分野が連携・
融合しだれもが健康的な生活を確保できるような社会を実現していきたい。
- ・ ジェンダー問題について、女性の中で幅広い意見を集めて討論すること。
- ・ ジェンダー平等の実現の推進。労働環境の改善。
- ・ 地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりして
もいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる。

●身近でできる行動や、大学全体での取り組み

- ・ 身近にできる SDGs 活動や、SDGs に関するイベントなどの情報提供をしていただきたいです。
- ・ 生活者視点からの行動の提案。
- ・ 大学全体で SDGs に関する取り組みを行ってほしい。
- ・ 地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりして
もいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる。(再掲)
- ・ 日本最高峰の女子大として、教育関係の支援に力を入れてほしいです。

●SDGs 達成に向けて行動する機会

- ・お茶大生、教職員全員が SDGs 達成に向け動くこと。具体的な活動、行動を促すこと。
- ・ボランティアの機会
- ・興味関心のない人でも参加したいと思える、そのハードルが低い簡単なことからできる活動を提唱してほしいです。附属校との連携や他大との連携にも期待しています。
- ・自然に対する興味関心を惹くようなボランティア活動
- ・実際に SDGs に関連した活動を行うことができる環境づくり。
- ・学生がボランティア活動に積極的に参加できるようしくみづくり。

●研究の推進・成果発信

- ・培養肉の研究、ジェンダー平等の研究
- ・メディアで取り上げられるような軽薄な活動ではなく、お茶大の得意な分野で専門的な知見を提供することで SDGs に貢献すること。
- ・メディアを含む学外に対しても SDGs の重要性や取り組みを発信し続けること。

●SDGs 実践に対する負担感

- ・あまり無理にやらせないでください。
- ・やり過ぎないようにしてほしい。
- ・押し付けがましくなく、産業の発展と両立すること。
- ・良い活動であるため、選択的にやれることはやっていきたいと思っているが、学生に対しての SDGs の活動の強要をしないでほしい。
- ・コオロギ食をしないこと。
- ・グリーンウォッシュだけはやめて欲しい。

教職員編

2-1 教職員とSDGs（結果の概要）

p. 44

教職員のSDGs
認知度は88.2%
関心度は82.9%

p. 46

41.7%の教職員が
研究を通じて
SDGs達成に参画

p. 49

42.0%の教職員が、
教育を通じて
SDGs達成に参画

p. 52

30.2%の教職員が、
研究・教育以外の業務を
通じてSDGs達成に参画

p. 54

年齢が高いほど、研究を
通じてSDGsに参画

p. 57

SDGs推進研究所の活動
のうち、教職員の認知度
が最も高かったのは
SDGs研究助成

p. 57

OCHA-SDGs学生委員会
の認知度は65.3%

2-2 調査の概要

1) 目的

本学で SDGs をより強力に推進するための基礎資料とするため、教職員の SDGs 認知度及び参画意識を調査すること。

2) 方法

【調査実施時期】

2024 年 1 月 10 日～2 月 1 日

【対象者と手続き】

対象者： 本学教職員（非常勤職員を含む）

手続き： 教職員向けメーリングリスト（kyoin-all 及び shokuin-all）を用いて対象者をリクルートする。メールに記載された URL から対象者を調査票に誘導し、Forms を用いたオンライン調査を実施した。10 分程度の回答時間を想定し、質問票を作成した。

【調査項目】

質問項目リスト参照

質問項目リスト

No	テーマ	教示（一部省略）	選択肢	質問数
1	SDGs 認知度	あなたは、SDGs について知っていますか。	1：SDGs について聞いたことがない～5：17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている	1
2	SDGs への関心	あなたは、SDGs についてどの程度関心がありますか。	1：全く関心がない～6：非常に関心がある	1
3	参画意識に関する質問－研究	あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 6 へ。	1
4		研究を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 3 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
5		今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 3 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
6	参画意識に関する質問－教育	あなたは現在、本学学生への教育を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 9 へ。	1
7		本学学生への教育を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 6 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
8		今後、本学学生への教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 6 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
9	参画意識に関する質問－研究・教育以外	あなたは現在、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している	1
10		ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 9 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
11		今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式	1
12	本研究所の活動	あなたは、以下の SDGs 推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。	1：聞いたことがない～4：聞いたことがあり、内容について詳しく知っている	10
13	本学の SDGs 活動に関する自由意見	本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。	自由記述式	1
14	属性	性別/年齢/主なご所属先を教えてください。		3
			合計	25

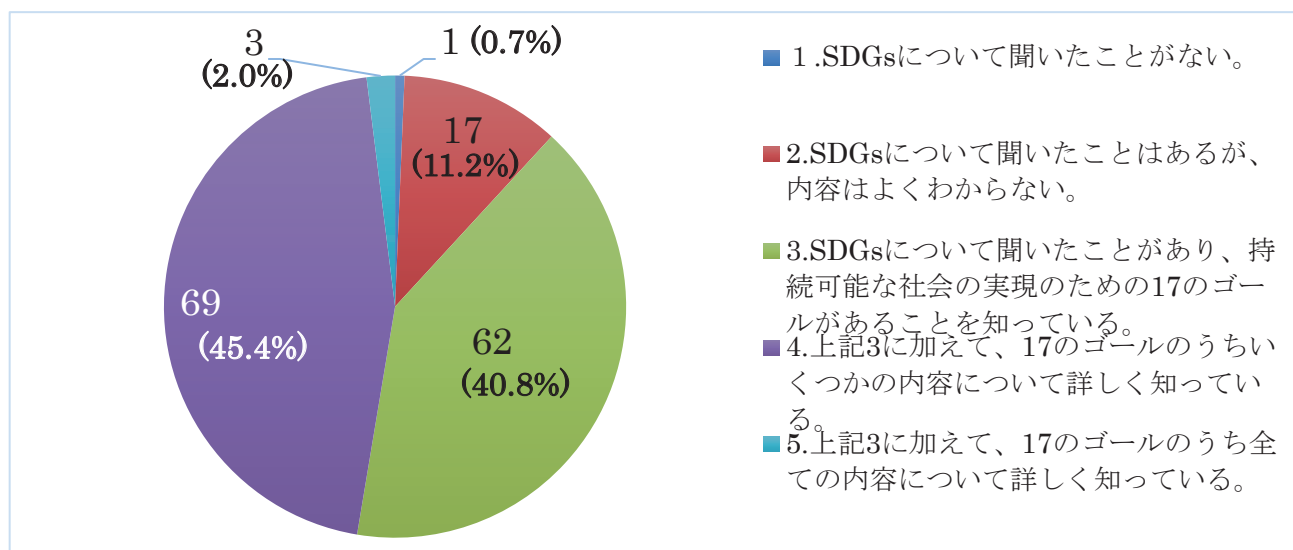
2-3 調査結果

(1) 対象者の特徴

性別（人）	
男性	60
女性	84
回答なし	8
所属先（人）	
事務系職	45
センター・研究所	33
文教育学部	29
理学部	20
生活科学部	20
基幹研究院	1
その他・回答なし	4
年齢（人）	
18-29 歳	9
30-39 歳	38
40-49 歳	38
50-59 歳	41
60 歳以上	20
回答なし	6

(2) SDGs 認知度

「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」

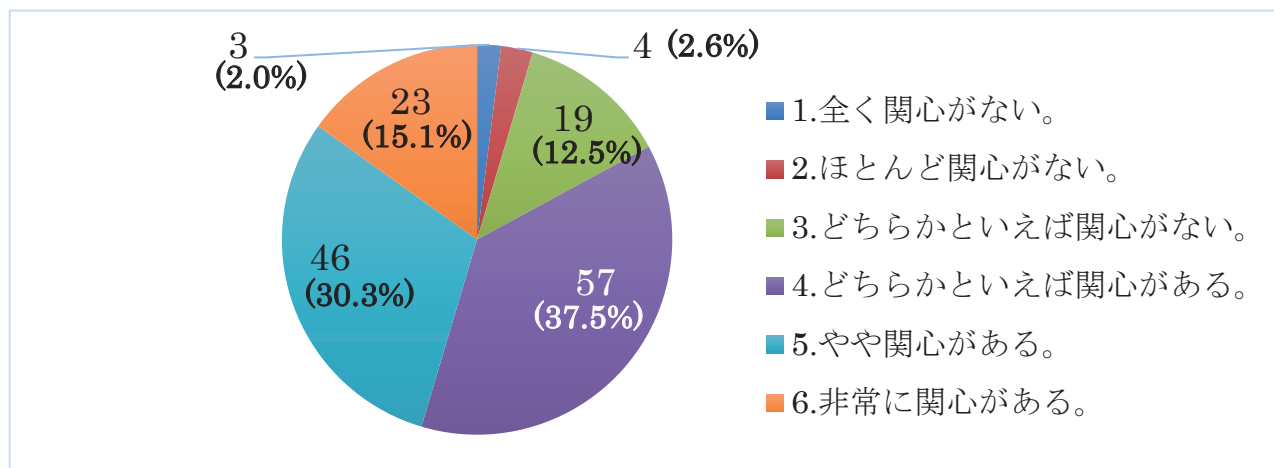


SDGs 認知度（上記項目で3～5 と回答した者の割合）は、

88.2%であった。

(3) SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。



SDG 関心度（上記項目で4～6 と回答した者の割合）は、

82.9%であった。

SDGs の認知度及び関心の属性による比較 (n=152)

有効回答数 (人)	全体 {平均値 (SD) }	学部/大学院 {平均値 (SD) }					年齢との 相関 s		
		文教育 (n=29)	理 (n=20)	生活 (n=20)	センター・研 究所 (n=33)	事務系職 (n=45)			
認知度 $\dagger\dagger$	152	3.4 (0.7)	3.2 (1.0)	3.5 (0.6)	3.4 (0.6)	3.6 (0.8)	3.4 (0.6)	0.36	-0.038
関心 $\S\S$	152	4.4 (1.1)	4.1 (1.4)	4.6 (1.0)	4.6 (0.8)	4.7 (1.2)	4.2 (0.8)	0.14	0.163*

*<0.05, **<0.01, ***<0.001 †一元配置分散分析 §Pearson の相関係数

^{††}選択肢：1.名前を聞いたことがない。；2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。；3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。；4.上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。

；5.上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

^{§§}選択肢：1.全く関心がない。；2.ほとんど関心がない。；3.あまり関心がない。；4.少し関心がある。；5.まあ関心がある。；6.非常に関心がある。

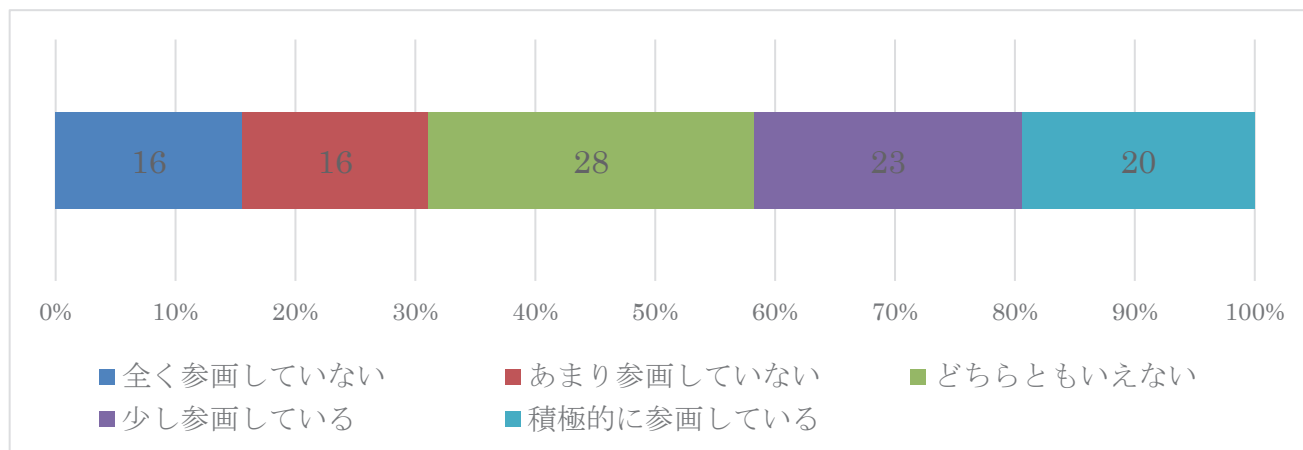
SDGs の認知度及び関心に、学部による違いはみられなかった。

（４）SDGs 推進活動に対する参画意識

① 研究

現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGs 達成に参画していますか。

（n=103；業務に研究が含まれていると回答した者のみ）



研究を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。（自由記述；抜粋）

○特定の目標や分野についての研究を行っている

- ・ SDGs のターゲットに関わる研究を実施している。
- ・ ジェンダー平等達成に関わる研究を行っている。
- ・ ジェンダー平等やダイバーシティに関連する研究をしている。
- ・ 健康の維持向上に関する研究
- ・ 医療系の研究をしているため、”3 すべてのひとに、健康と福祉を”に該当する。

○具体的な参画例

（個人を特定する可能性があるため非公開とする。）

○その他

- ・ SDGs に関する論文を発表したことがある。
- ・ （固有名詞）ウェブサイトの翻訳を通じて SDGs にもつながる内容を発信している。

今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

(自由記述・抜粋)

○SDGs に参画する上で前提となることからの難しさ

- ・そもそも現状の SDGs は偏った項目ばかりが強く宣言され、それにより多くの人間が「自分事」として考えられていないのではないかと思います。また、その特定の項目以外を SDGs の取り組みとして挙げると「それは本当の SDGs ではない」といった扱いをされることさえあります。
- ・障壁になるものはスタートの位置に立つことです。
- ・具体的に何をしたらよいかかわからない。
- ・立場が不安定（有期雇用）なため、研究の持続可能性の土台が危うい。
- ・有期雇用で安定したポストがないこと。

○自身の研究内容との関連付けの難しさ

- ・SDGs と研究の目的が重ならない限り、研究を通じて SDGs に参画することはない。
- ・専門分野では SDGs に寄与する可能性がほぼない。
- ・文系ですので、貢献できるところが少ないと思います。
- ・分野にもよるが、専門の種類によって、積極的に参画できるかどうか分かれるように思われる。
- ・基礎学問からのつながりを見つけるのが難しい。
- ・研究テーマが思い浮かばないこと。
- ・研究分野のそもそもの性格。
- ・研究成果の発信・活用のあり方。
- ・他分野とのコネクション。

○時間や資金・人的資源の確保の難しさ

- ・時間の確保
- ・時間（研究の時間が取れない）。
- ・十分な研究資金が不足。
- ・分析に有効なデータの収集をバックアップする資金。
- ・文系なので研究費の獲得機会がなかなかない。
- ・マンパワーの不足
- ・研究環境
- ・大学業務の多さ

○具体的な困難要因

- ・フードネオフォビア（新規食品に対する抵抗感）。
- ・生物多様性に興味が薄い人たちへの教育・研究紹介。
- ・企業のイメージ戦略にしか利用されていないところ。

○SDGs の内容理解そのものへの難しさ

- ・そもそも中国政府やロシア政府も喜んで進めているようなキャンペーンに賛同すべきか。SDGs には学問的に批判的な態度が必要である。
- ・SDGs の内容があまりにも茫漠としている。
- ・SDGs に関する知識の不足。
- ・参画方法が分からない。
- ・SDGs に参画するインセンティブがない。

○障壁なし

- ・現時点では特に障壁とまで感じている事象はございません。
- ・参画すること自体に障壁はないと考える。

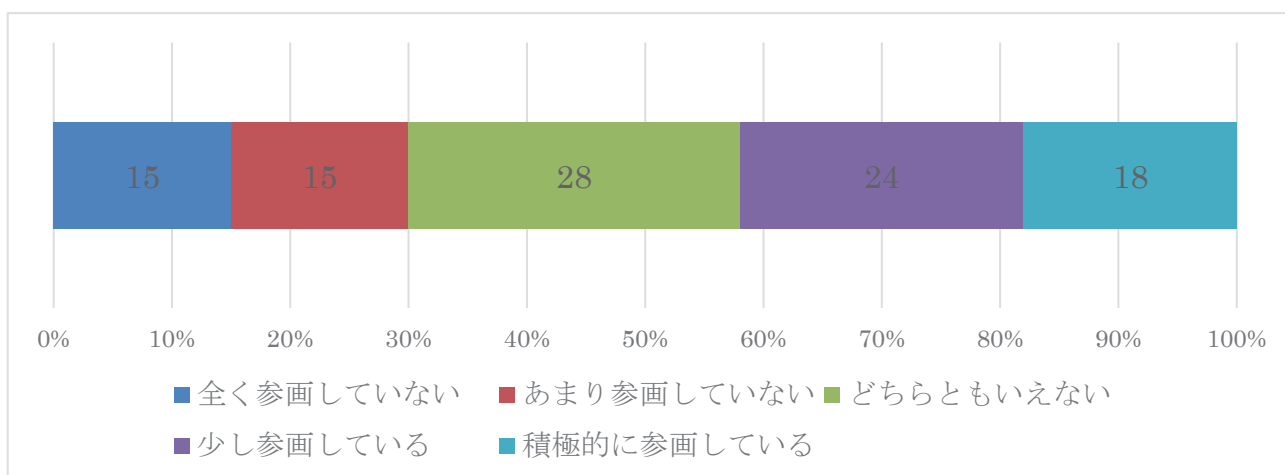
○その他

- ・実社会への実装を進めるマッチングと資本支援。
- ・特に興味がない。
- ・現実的ではない。
- ・無意識による差別。

② 教育

あなたは現在、本学学生への教育を通じて、SDGs に参画していますか。

(n=100; 業務に教育が含まれていると回答した者のみ)



教育を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。 (自由記述 ; 抜粋)

○授業等による参画促進

- ・授業内容で SDGs に関連するトピック (ジェンダーや環境に取り上げている。)
- ・「質の高い教育を」としてデザイン思考やロジックモデルの使い方について教えている。
- ・授業での具体的な内容の紹介、開発途上国の SDGs に貢献するアクションの説明による理解促進
- ・ジェンダー平等に関する教育に携わっている。
- ・授業で扱う内容と SDGs を結びつける。
- ・衣料の生産・消費に関する環境・労働面への影響について講義で取り扱っている。
- ・防災・減災に関する集中講義を担当しています。
- ・リベラルアーツ演習の対話的論証のテーマで SDGs について取り上げた。
- ・ジェンダー平等、ダイバーシティなどに関連した授業を行っており、学生がそうしたテーマに取り組むことを課題とすることもある。
- ・担当する授業の中で SDGs の内容を紹介し、生物多様性・生態学の位置づけや世界的な動きについて説明している。
- ・英語の授業で SDGs について取り扱っている。いくつかのゴールに関するトピックについて掘り下げたり、学生にグループプレゼンをしてもらったり、ディスカッションしてもらったりしている。
- ・これまでの続きとして、ジェンダー、ジェンダー平等、貧困、グローバリゼーションなどのテーマについて講義を行なうだけではなく、学生同士のディスカッションを行うことについて、学生自身の関心を高めるようにしたい。
- ・授業に SDGs の一部の目標を説明している。
- ・都市の持続可能性を左右する少子高齢化対応の研究に関する授業。
- ・ジェンダーの問題について授業で取り上げている。
- ・LA 科目、学部専門科目、大学院専門科目において SDGs に関する内容を扱っている。
- ・生活空間における環境・防災に関する講義。

- ・キャリア教育の授業を通じて、労働市場における働き甲斐やジェンダー平等について考える機会を提供している。
- ・授業で取り上げている。
- ・ジェンダー学的要素を取り入れたコミュニケーション学習。
- ・SDGs をテーマにした講義を行っている。
- ・健康やジェンダーに関する講義。
- ・授業にて SDGs を取り上げる

○研究指導等による参画促進

- ・9. 産業と技術革新の基礎を作ろう に関連し、基礎を作れる人材の育成をしている。
- ・研究室のゼミや研究課題に取り上げている。
- ・ジェンダー平等に関する教育に携わっている。
- ・管理栄養士養成自体が人々の健康維持増進に関わるため。
- ・「保健」と「教育」の目標達成に関連する、学部生に対する心理学的な実証研究の方法論の教育および大学院生の研究指導。
- ・学生たちに SDGs のターゲットを示し、関心あるターゲットについて調査を実施した。
- ・フィールド実験を通じてフィードバックを行っている。
- ・自然環境とその変化をフィールド活動を通じて体感。
- ・卒業研究、修士論文研究にて上記4. の研究に参加している。
- ・大学院生が SDGs に関わる論文を書き指導した。

今後、ご自身の教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

(自由記述・抜粋)

○参画するための資源の不足

- ・教材。
- ・資格養成教育（基礎分野）と SDGs 内容の乖離。
- ・ガイドラインの不整備。

○社会実装の機会や資金の不足

- ・実践できる場所（現在は生協店舗に頼んでいるが、大学外でも実店舗などで実施できると良い）。成果物の展示場所。成果物を作成する上での予算。
- ・授業を通して、学生が社会や企業に繋がる機会が少ない。
- ・学生を学外に連れて行く（見学、合宿など）費用がないこと。

○SDGs 参画に対する適切な社会の評価の不足

- ・ 学生が SDGs を学んだり、自身の研究で実際に貢献したりしたことが、社会で適切に評価される流れやシステムが必要ではと思いました。
- ・ 教育を通じて SDGs 参画することへのインセンティブ。
- ・ SDGs 参画の度合いの評価を自らの価値観で行うか一般的な尺度で行うかで異なってくる。

○教員自身の SDGs への理解への不安など

- ・ 領域が広すぎて、自分自身の知識やキャパシティではカバーできない内容も多い。
- ・ SDGs の内容があまりにも茫漠としていて、具体的に何をしたら参画していることになるのか、ならないのか、という評価を恣意的に設定できてしまう。
- ・ 自身の SDGs に対する理解度、講義や演習への取り入れ方の工夫（等を考える力量や余裕の不足）。
- ・ よく知らないということ。
- ・ SDGs に関する知識の不足。労働力（協力者）の欠如。
- ・ どのように教育を通じて参画可能かが分からない（ノウハウの不足）。

○専門分野と SDGs との関連性の弱さ

- ・ 専門領域そのものが SDGs で掲げられている具体的な項目と離れている点。
- ・ 分野にもよるが、専門の種類によって、積極的に参画できるかどうかが分かれるように思われる。
- ・ 専門分野の性格。

○学生自身の参画意欲

- ・ 学生各自の熱量の違い。
- ・ 学生から「子どもの頃から SDGs についてよく聞くので SDGs 疲れをしている」と聞いたこと。

○学生に SDGs へ参画させることへの反対意見

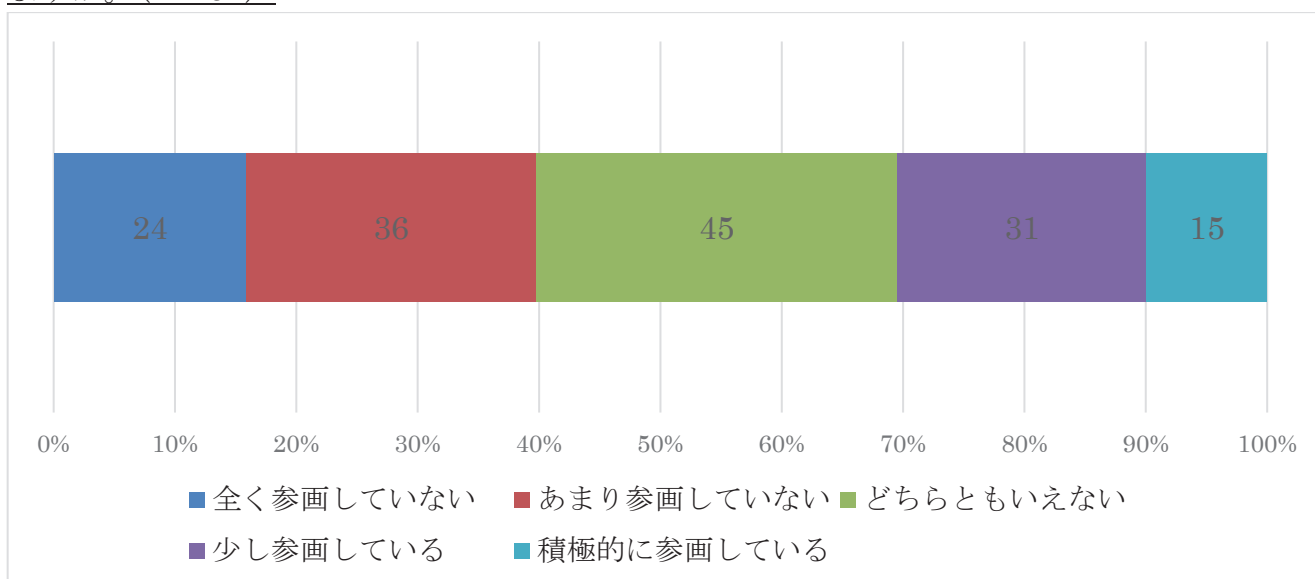
- ・ 学生にむだなことをさせるのはやめたほうがいい。

○その他

- ・ 人々（特に年配者）による無意識的差別。
- ・ 特に興味がない。

③ 研究・教育以外の業務

あなたは現在、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。(n=151)



ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。(自由記述・抜粋)

○業務環境整備を通じた SDGs 参画

- ・会議でのペーパーレス。
- ・諸手続きにおいて、提出書類のデータ化に大学が動いていることを実感しており、協力するようにしている。
- ・決裁業務の電子化による紙の削減。
- ・環境に配慮した物品の調達。
- ・省エネの推進等。
- ・リサイクルできる使用済み物品の分別作業。
- ・プラスチック製品のリサイクルなど。
- ・リサイクル出来るものの仕分けをしっかりとる。再利用できるものは使用していく。
- ・日常業務の中でも、節電やゴミのリサイクルなど、地球環境に関する目標 13、14、15 を意識している。
- ・ごみの分別、ごみの削減、空調管理によるエアコン使用の削減、休憩時間の消灯、裏紙の再利用。

○業務内容が直接的に SDGs 参画と結びついている例

- ・業務内容に SDGs 推進活動が含まれており、SDGs の取り組みの実施やイベント開催等をおこなっている。
- ・SDGs 関連イベントの推進。
- ・学生サークルや附属中高、学内イベントなどに協力し、植物観察などを通して生物多様性に関する知識の普及を行っている。

- ・学生活動の支援を通して、SDGs 達成に向けた活動に貢献している。
- ・SDGs 研究所の取り組みに協力している。
- ・育児のための休暇の新設、非常勤職員の産休の有給化、次世代育成対策及び女性活躍推進対策行動計画の策定、健康診断・ストレスチェック・インフルエンザワクチン接種等の実施による保健・衛生への貢献、ハラスメント対策による不平等の是正等。
- ・自らの働き方にて体现、ロールモデル。
- ・男女共同参画に関する業務。
- ・本学の中期計画に SDGs が目標となっていることから評価関係で参画している。
- ・企業とのコンソーシアム活動など。
- ・所属部局では、ジェンダー平等や DE&I 推進に関連する事業を行っており、SDGs 目標の 3、4、5、8、9、11、16、17 達成に貢献するといえる。

○研究・教育業務およびそれらのサポート業務を通した SDGs 参画。

- ・センター員として活動を支援。
- ・体育や芸術の普及や理解を深めるための学会や連盟の役員として専門的知識を提供し教育の質の向上に貢献していること。
- ・国や自治体の関連委員会委員として SDGs ゴール達成のための政策推進への助言・提言を行う。
- ・ジェンダー学的要素を取り入れたコミュニケーション学習。
- ・節電など、サステナブルな研究のあり方を指導している。
- ・子供や高齢者の健康研究とその社会実装、身体に見られるジェンダー感に関する研究。
- ・研究所の研究員として、イベントなどには参加している。
- ・都市の持続可能性を左右する少子高齢化対応の研究に関する授業。

○学内での参画例はない

- ・研究・教育以外ではない。
- ・具体例ではないが、環境問題やフードロスについて関心がある。
- ・学外での講演など。
- ・外部でジェンダー問題について講演やシンポジウム登壇を行なっている。

○生活面での参画

- ・自宅で SDGs 達成につながるような環境に負荷のかからない生活を心がけている。
- ・環境 NPO への参加、寄付、家庭菜園の実践。
- ・ジェンダー論研究者として自分のジェンダーへの関心はもとより、日常生活の消費において持続可能な選択肢を意識的に選択しています。

SDGs への参画意識の属性による比較 (n=152)

有効回答 数 (人)	全体 { 平均値 (SD) }	学部/大学院 { 平均値 (SD) }				p 値 [†]	年代との 相関 [§]
		文教育 (n=29)	理 (n=20)	生活 (n=20)	センター・研究 所 (n=20~33)	事務系職 (n=8~45)	
研究 ^{††}	152	2.9 (1.3)	2.8 (1.2)	3.7 (1.1)	3.5 (1.3)	2.7 (1.7)	0.24*
教育 ^{††}	152	2.9 (1.3)	3.1 (1.2)	3.6 (1.3) ^a	3.6 (1.3) ^b	1.8 (0.7) ^{ab}	0.19
業務 ^{††}	152	2.6 (1.2)	2.5 (1.2)	3.2 (1.3)	3.2 (1.2)	2.7 (1.1)	0.09

* < 0.05, ** < 0.01, *** < 0.001 † 一元配置分散分析 § Pearson の相関係数

^{a~b} : 同じ文字を付した群間に有意差あり (p < 0.05)

^{††} 選択肢 : 1. 全く参画していない。 ; 2. あまり参画していない。 ; 3. どちらともいえない。 ; 4. 少し参画している。 ; 5. 積極的に参画している。
; 6. 業務に研究/教育は含まれていない。と回答した者を除く。

年代が高いほど、研究を通して SDGs に参画していた。

事務系職と比較して、生活科学部及びセンター・研究所の教職員では教育を通じて SDGs に参画していた。

今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。（自由記述・抜粋）

○学内業務や研究内容との関連性の薄さ

- ・学内業務内容だけでは SDGs 達成の関連性が薄い。 ・業務上関わりがほぼ無い。
- ・本務内容に含まれるのか、external な任務なのか、難しい。ボランティア活動と似ている。
- ・直接は関連しない業務内容のため、業務上参画していると捉えにくい。
- ・今の業務内容で出来ることがあると思っていない。
- ・専門分野の性格。
- ・現在の SDGs 研究所の生活科学を起点とした視点は重要だと思いますが、その時に扱う「環境問題」に生物多様性までを積極的に含めてくださると参画しやすくなると思いました（今はなんとなく、化学的な内容が中心な印象を持っています）。

○時間・資金・人的資源等の不足

- ・時間・人的資源・予算の不足。
- ・研究・教育以外の活動に充てる時間がないこと。
- ・大学業務の多さに起因する活動時間の制約。
- ・時間的余裕（多数・同様のコメント 7 件）。
- ・それにかかる時間が取れない、研究費がない。
- ・予算の使い方に制限があったり、難しい。何かを買うにしても、取引は書類作成に対応できる企業のみで、選択肢が狭まる。
- ・資金やマンパワーの不足。
- ・十分な研究資金が不足
- ・学内での他の業務が多すぎて、なかなか研究所の活動に積極的に参加する機会がない。
- ・既存業務の負担度。

○方針や目標の不明示のため

- ・SDGs 推進の方針について、全学的な方針が示されていないこと。
- ・SDGs に関する学内の方針がないこと。
- ・具体的な目標が定まっていない。
- ・具体的な対策や目標値が示されていない。
- ・具体的にどういう参画をせよということなのかわからないので答えられない。
- ・具体的に何をすれば SDGs 達成になるのかを理解していない。そもそも SDGs の目標自体が漠然としている印象がある。
- ・本学でどのような SDGs 達成のための活動や目標があるのか学内に周知されていない状況（理解・認知度の低さ）。
- ・現在は特に障壁になるものは認識していないが、逆に、目標として明示されていないことによって、個々人の意識や裁量にまかされているため、学内教職員のインセンティブが働かないという側面はあるかもしれない。

○情報 不足・知識不足や連携不足への不安

- ・情報の提供。
- ・よく知らないということ。
- ・どのように参画するのか知らない。情報不足。
- ・SDGsに関する知識・情報の不足。そうした知識・情報を得るための時間の不足。
- ・やり方がわからない。
- ・つながりが見えれば、それほど障壁になるものないかなと思います。
- ・各課で参画活動に温度差がある。情報共有、連携が必要。
- ・本学のほとんどの教員と交流する場がないこと。

○社会課題やお茶大内の環境要因

- ・省エネに気を配ることや、健康増進に気を配ることも 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに や 3. すべての人に健康と福祉を 等にも該当するはずだと認識しているが、それらを主張することは「本当の SDGs ではない」という扱いをされないかという懸念があるため。
- ・個人的な感覚ですが、東京は地域コミュニティが活発なところと活発でないところの差が顕著。
- ・社会の受容。
- ・定年後雇用やボランティア活動において SDGs 達成に資する分野に、個人や事業者が参画したくなるような仕組みがないか足りない。
- ・大学マネジメントに関わる人々に年配男性が多い実態。
- ・紙文化（法人文書管理を紙で行ってきた素地（今後は電子化が見込まれている）、押印廃止がなされていない文書、「まずは紙で印刷して持ってきて」等）。
- ・未だ押印が必要な書類があり、印刷物を減らすことが難しい点がある。
- ・学内の考え方の相違。

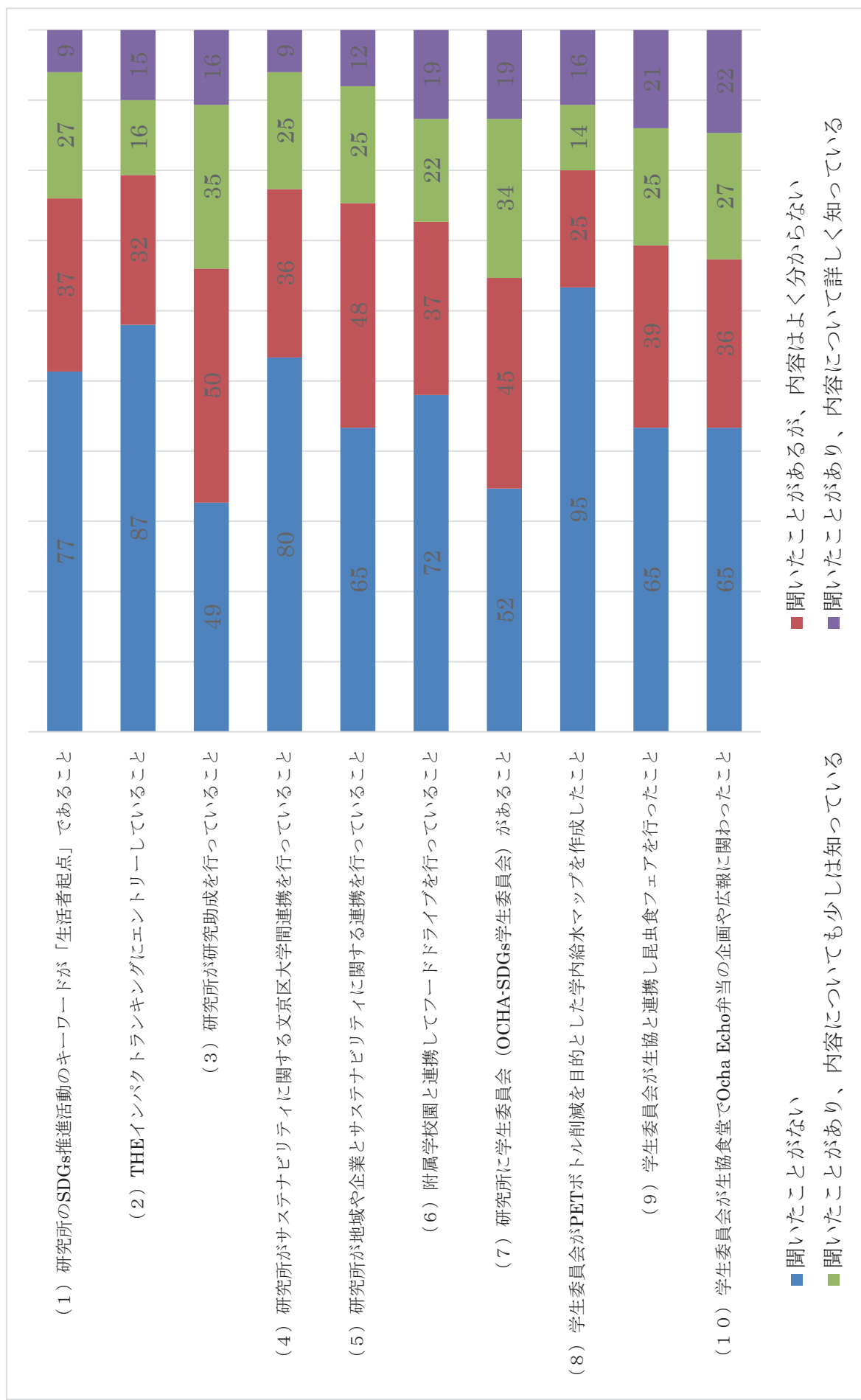
○SDGs に対する反対意見

- ・教職員にむだなことを課さないでほしい。

○その他

- ・前例がない事。
- ・意識を高めること。
- ・社会貢献という観点では極めて意義はあるが、企業と同等の経営を行う（思考や制度等）ことが優先課題と思う。
- ・限られた時間と自身の健康と能力。
- ・自らできることをできる範囲でやる、ということであれば障壁は感じないが、あくまで個人レベル。社会的に大きな力につながる活動ができるかといえば、自信はない。

(5) SDGs 推進研究所の活動に対する認知度
 あなたは、以下の SDGs 推進研究所の活動について知っていますか。(n=150)



属性による認知度※₁の分布（%；n=150）

	合計※ ₂ (n=150)	文教育学部 (n=29)	理学部 (n=20)	生活科学部 (n=20)	センター・研 究所(n=33)	事務系職 (n=45)
(1) 研究所のSDGs推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	48.7	51.7	45.0	70.0	36.3	44.4
(2) THE インパクトランキングにエントリーしていること	42.0	20.7	35.0	45.0	36.3	60.0
(3) 研究所が研究助成を行っていること	67.3	62.1	80.0	90.0	60.6	60.0
(4) 研究所がサステナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	46.7	37.9	50.0	50.0	39.4	55.6
(5) 研究所が地域や企業とサステナビリティに関する連携を行っていること	56.7	44.8	45.0	75.0	60.6	57.8
(6) 附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	52.0	37.9	40.0	70.0	54.5	57.8
(7) 研究所に学生委員会（OCHA-SDGs 学生委員会）があること	65.3	41.4	80.0	60.0	69.7	73.3
(8) 学生委員会がPET ボトル削減を目的とした学内給水マップを作成したこと	36.7	24.1	35.0	45.0	33.3	44.4
(9) 学生委員会が生協と連携し昆虫食フェアを行ったこと	56.7	48.2	70.0	55.0	60.6	55.6
(10) 学生委員会が生協食堂でOcha Echo 弁当の企画や広報に関わったこと	56.7	41.3	60.0	65.0	54.5	64.4

※₁「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」「聞いたことも少しは知っている」「聞いたことがあり、内容について詳しく知っている」と回答した者の割合。※₂属性の設定に無回答の対象者を含むため、各所属のサブグループの合計と異なる。

最も認知度の高い属性を緑色で示した。

(6) 本学 SDGs 推進活動に対するご意見（抜粋）

本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。

○SDGs 推進への肯定的意見

- ・推進活動に効果を出していると思います。 ・素晴らしい活動であると思う。
- ・学生委員会の活動が活発のように見えます。 ・SDGs 推進研究所の活動に期待する。
- ・フードドライブの活動はよいと思いますので、開催される期間が長くなると嬉しいです。

○お茶大の独自性を打ち出した SDGs 推進への要望

- ・この調査を通じて、あらためて SDGs 推進研究所のウェブサイトを見ました。教育、研究面で影響力のある取り組みだと思うので、お茶大ならではの分野や視点で推進いただきたいです。
- ・多くの大学で、当たり前のように SDGs に関する活動が行われています。突出する必要はなく、この大学として「生活者視点」という取り組みを無理なく進めるのが良いと考えています。将来的には、「当り前の SDGs 活動」をこの国が目指すのならば、背伸びは禁物に思います。持続可能な SDGs の活動が、流行で終わらないためにも...
- ・本学のミッション実現に関連した SDGs 推進をぜひ行っていただきたいと思います。
- ・昨今の国内の状況として、大学だけではなく企業も SDGs の名のもとに様々な取り組みを行っています。お茶大独自の取組を国内外に発信してほしい。また、このようなアンケートを今後も行って SDGs 推進を学内構成員を巻き込んで進めてほしい。
- ・インクルージョンとして、お茶の水女子大学にしかできない活動があると素晴らしいです（ダイバーシティというよりは、社会的弱者への活動）。

○活動内容の拡充への要望

- ・特定の項目に関してはよく活動されていると認識しているが、「これも SDGs なんだ」と、普段の日本社会では大きく扱われない項目に関しても時々扱う事で 17 の項目全体の周知活動をするのも広い理解につながって良いのではないかと考えている。
- ・ハードルが高いのかもしれませんが、食に限らず、様々な領域とコラボを考え、とりまとめやリードしていただくことを期待しております。

○大学全体としての SDGs 推進活動実施への期待

- ・活動が一部にとどまっているように思います。理事・副学長クラスの大学幹部によるイニシアティブで全学的に SDGs を推進すべきと考えます。
- ・特定の分野の研究者に限られているので、もう少し全学的な活動になることを期待している。
- ・SDGs 研究所所属の教職員・スタッフ・関係学生のみ尽力している印象で、そのほかの構成員はさして理解・熱心に活動している雰囲気はなく、温度差があるように思います。そもそも SDGs は個人単位の熱量の問題に帰してしまいがちなため、組織としての動きにつなげにくい気がします。その問題を大学としてどのように解決・改善していくかも、発信して欲しいです。
- ・教職員、学生すべて一体となって活動できるよう、参加しやすくわかりやすいしくみを作っていただきたいです。ぜひ参加したいです。
- ・研究所であつたり、グローバル協力センターが行っている授業などそれぞれの部局で活動はしているが、大学全体として見えてないイメージがある。
- ・大学全体として SDGs をやっていこうという姿勢が感じられない。

○本調査をきっかけにはじめて本学の SDGs 推進活動について知った

- ・本アンケートまで、学内で様々な運動をしていることを知りませんでした。これから、少しずつ理解を深めていきたいと思いました。
- ・あまり聞いたことがなく恐縮です。今回のアンケートで初めて取り組みを知りました。

○SDGs 推進に肯定しながらも距離をとる姿勢

- ・社会的なムーブメントを起こすように積極的に活動されるよう願っています。陰ながら応援しています。
- ・住んでいる世界をみんなが仲良く楽しく過ごせるように活動をよろしくお願いします。
- ・お役に立てることがあれば、積極的に貢献したいと思っています。
- ・次年度もますます頑張ってください。

○本学の SDGs 推進活動についての理解が難しいとの意見

- ・良く分かりません。
- ・本学の規模でどの程度の活動ができるのか、こういった目的で SDGs 研究所が作成されたのか、不勉強で恐縮ですが、あまり理解できていません。

○SDGs 推進への反対意見

- ・すぐにやめてほしい。
- ・SDGs などよりも図書館におカネを使ってほしい。

○その他

- ・給水ポイントの設置はとても良いと思います。
- ・進んでいないと思います。
- ・宣伝不足という印象です。
- ・学生への負担が気になる。研究成果へ繋げるなど、成果をアーカイブ・発信する機会があれば良いのでは。
- ・どういう活動を教員に求めているのか、具体的に教えて欲しい。
- ・教員一人ひとりの取組、研究所での取組が混在していて伝わっていないものもあるように感じております。
- ・自戒も含めて、SDGs ウォッシュにならないように、研究・教育内容を精査していきたいです。
- ・SDGs という看板をかけるかはともかくとして、本学ではジェンダー平等をはじめとして、より公正な社会を実現するために資する研究活動・教育活動が多く行われていると思うので、そのことを学内外に積極的に知らせていくことで、大学の価値を高めることができるのではないかと思います。
- ・大学という組織として、あるいは一人ひとりの個人として、無理なく続けていけることを、こつこつと積み重ね、継続していくことが大切なのかなと思います。
- ・アンケート調査は統計をとるためにも毎年実施しすることが重要だと思います。

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、お茶大生の、SDGs に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、本学の SDGs 推進活動や、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。なお、調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げの場合には、2023 年 3 月末日までに、SDGs 推進研究所までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 本調査には、いじめや不登校に関する質問項目（1 問）が含まれます。回答されたくない方は、調査に参加されないことをお勧めいたします。
- ・ 調査にご協力いただいた方には、OCHA-SDGs オリジナルグッズを差し上げます。調査終了画面をお持ちの上、SDGs 推進研究所事務局（総合研究棟 207）までいらしてください。
- ・ 調査への回答は、お一人につき一回とさせていただきます。複数回のご回答はご遠慮ください。

●個人情報保護に関して

- ・ 本調査では、回答者の属性に関する情報収集のため、学籍番号の上 5 桁や年齢等をご回答いただきますが、回答内容から個人を特定することはありません。また、データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報外部にもれることは一切ありません。収集したデータ及び結果は責任者が厳重に管理し、研究以外の目的に使うことはありません。

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なります。

★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1 同意します	2 同意しません
---------	----------

まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

1－1. あなたはお茶大生ですか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

1－2. 学籍番号の上5桁を教えてください。※下2桁は入力しないでください。

--	--	--	--	--

1－3. あなたの年齢を教えてください。

	歳
--	---

1－4. 母国語を教えてください。

日本語	日本語以外
-----	-------

1－5. あなたの現在の暮らしについて教えてください。

実家暮らし	一人暮らし	寮暮らし
-------	-------	------

1－6. 現在のあなた自身の経済的な暮らし向きについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1. ゆとりがある
- 2. ややゆとりがある
- 3. どちらともいえない
- 4. あまりゆとりがない
- 5. 全くゆとりがない

1－7. あなたの現在の学生生活は充実していますか。最も当てはまるもの一つを選択してください。

1. 全く充実していない	2. あまり充実していない	3. まあ充実している	4. とても充実している
--------------	---------------	-------------	--------------

1－8. あなたの2022年度後期の授業期間中の、1週間の登校日数は何日ですか。

日

次に、SDGs に対するあなたの知識や考えについてお伺いします。

2-1. あなたは、SDGsについて知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1.名前を聞いたことがない。
- 2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている。
- 4.上記 3 に加えて、17 のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5.上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

2-2. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1.全く関心がない。
○2.ほとんど関心がない。
○3.あまり関心がない。
○4.少し関心がある。
○5.まあ関心がある。
○6.非常に関心がある。

2-3. あなたが、SDGsに興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

- 1. 学校の授業（高校以前）
- 2. 学校の授業（お茶大）
- 3. 学校の授業（他大学）
- 4. ボランティア活動の経験
- 5. 海外での経験（居住、留学、課外活動など）
- 6. アルバイトの経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS（知人やインフルエンサー）
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他（具体的に：

2-4. あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない 全く	知らない ほとんど	知らない あまり	知っている 少し	知っている だいたい	知っている 非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう	<div>1 貧困をなくそう</div> 	1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに	<div>2 飢餓をゼロに</div> 	1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を	<div>3 すべての人に健康と福祉を</div> 	1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	<div>4 質の高い教育をみんなに</div> 	1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	<div>5 ジェンダー平等を実現しよう</div> 	1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	<div>6 安全な水とトイレを世界中に</div> 	1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> 	1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	<div>8 働きがいも 経済成長も</div> 	1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	<div>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> 	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	<div>10 人や国の不平等 をなくそう</div> 	1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6




2－5. あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

		関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに	2 飢餓を ゼロに 	1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を	3 すべての人に 健康と福祉を 	1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育を みんなに 	1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を 実現しよう 	1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレ を世界中に 	1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	8 働きがいも 経済成長も 	1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等 をなくそう 	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を	11 住み続けられる まちづくりを 	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	12 つくる責任 つかう責任 	1	2	3	4	5	6

13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に 関心がある」をクリックし てください。		1	2	3	4	5	6

2-6. あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		影 響 し な い 全 く	影 響 し な い ほ と ん ど	影 響 し な い あ ま り	影 響 す る 少 し	影 響 す る ま あ ま あ	影 響 す る 非 常 に 強 く
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6

4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育を みんなに 	1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を 実現しよう 	1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレ を世界中に 	1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	8 働きがいも 経済成長も 	1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等 をなくそう 	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を	11 住み続けられる まちづくりを 	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	12 つくる責任 つかう責任 	1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を	13 気候変動に 具体的な対策を 	1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう	14 海の豊かさ を守ろう 	1	2	3	4	5	6

15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に強く影響する」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

3-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

3-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月 1 回未満	月 1〜3 回	週 1〜3 回	週 4〜6 回	毎日 1 回	毎日 2 回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)	1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	---

	行っていない 全く	行っていない ほとんど	行っていない あまり	行っている 少し	行っている まあまあ	行っている いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

3-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

3-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1～3回	週1～3回	週4～6回	毎日1回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 外食する。	1	2	3	4	5	6
7. 中食する。 (中食：家庭外で調理された弁当や惣菜などを自宅や職場・大学で食べること)	1	2	3	4	5	6

8. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの:包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)	1	2	3	4	5	6
9. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
10. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
11. 代替肉を食べる。(例:大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6
12. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例:腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6

3-5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど食べない
○2. 週に 4~5 日食べない
○3. 週に 2~3 日食べない
○4. ほとんど毎日食べる

3-6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1~3回実施したことがある	4~6回実施したことがある	10回以上実施したことがある
1. 授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。 (例:ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例:教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例:ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4

10. SDGs に関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択してください。	1	2	3	4
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

3－7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- 1. 全くしていない
- 2. ほとんどしていない
- 3. あまりしていない
- 4. 少ししている
- 5. たまにしている
- 4. いつもしている

3－8. あなたは、いじめや不登校を経験したことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがなく、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることもない。
- 2. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがないが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることはある。
- 3. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがあるが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見たことはない。
- 4. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがあり、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることもある。
- 5. わからない、覚えていない。

4. あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

5. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりすることが問題となっています。つきましては大変失礼なのですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに（つまり、どの選択肢もクリックせずに）、次のページに進んでください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

調査にご協力いただいた方に、謝品（OCHA－SDGs 学生委員会オリジナルグッズ）をお渡ししております。

この画面をご用意の上、SDGs 推進研究所（総合研究棟 207）までお受け取りにいらして下さい。

【参考資料】2) 調査質問紙（一般女性対象）

＜リクルート画面＞スクリーニング項目

F1. あなたの性別をお知らせください。

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

F2. あなたの年齢をお知らせください。

		歳
--	--	---

F3. あなたが現在お住まいになっている地域についてお知らせください。

1.北海道	2.青森県	3.岩手県	4.宮城県	5.秋田県	6.山形県
7.福島県	8.茨城県	9.栃木県	10.群馬県	11.埼玉県	12.千葉県
13.東京都	14.神奈川県	15.新潟県	16.富山県	17.石川県	18.福井県
19.山梨県	20.長野県	21.岐阜県	22.静岡県	23.愛知県	24.三重県
25.滋賀県	26.京都府	27.大阪府	28.兵庫県	29.奈良県	30.和歌山県
31.鳥取県	32.島根県	33.岡山県	34.広島県	35.山口県	36.徳島県
37.香川県	38.愛媛県	39.高知県	40.福岡県	41.佐賀県	42.長崎県
43.熊本県	44.大分県	45.宮崎県	46.鹿児島県	47.沖縄県	

F4. あなたの婚姻状況をお知らせください。

1. 未婚・子どもなし
2. 未婚・子どもあり
3. 既婚・子どもなし
4. 既婚・子どもあり
5. 離・死別・子どもなし
6. 離・死別・子どもあり

F5. あなたの職業をお知らせください。

1. 会社・団体の経営者・役員
2. 会社員（契約社員／派遣社員含む）
3. 公務員
4. 自営業・自由業
5. 専業主婦・主夫
6. パート・アルバイト
7. 学生
8. 無職／リタイア
9. その他

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、みなさまの、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。ただし、調査を途中でやめた場合、インセンティブは付与されません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げる際には、2023 年 3 月末日までに、[調査会社の運営サイト] までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 調査に関するお問い合わせは、調査終了後に表示されるお問い合わせ先までご連絡ください。

●個人情報保護に関して

- ・ データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。結果は責任者が厳重に管理し研究以外の目的に使うことはありません。

★印は必須の質問項目

1 同意します

2 同意しません

○1.全く関心がない。
○2.ほとんど関心がない。
○3.あまり関心がない。
○4.少し関心がある。
○5.まあ関心がある。
○6.非常に関心がある。

- 1. 学校の授業（高校以前）
- 2. 学校の授業（大学・短大・専門学校等）
- 3. ボランティア活動の経験
- 4. 海外での経験(居住、留学、課外活動など)
- 5. アルバイトの経験
- 6. 就労時の経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS（知人やインフルエンサー）
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他（具体的に：

1－3. あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない	全く	知らない	ほとんど	知らない	あまり	知っている	少し	知っている	だいたい	非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう	<div>1 貧困をなくそう</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
2. 目標 2 飢餓をゼロに	<div>2 飢餓をゼロに</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を	<div>3 すべての人に健康と福祉を</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	<div>4 質の高い教育をみんなに</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	<div>5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	<div>6 安全な水とトイレを世界中に</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	<div>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	<div>8 働きがいも 経済成長も</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	<div>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	<div>10 人や国の不平等 をなくそう</div> <div></div>	1		2		3		4		5		6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6




1－4. あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

		関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに	2 飢餓を ゼロに 	1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を	3 すべての人に 健康と福祉を 	1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育を みんなに 	1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を 実現しよう 	1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレ を世界中に 	1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	8 働きがいも 経済成長も 	1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等 をなくそう 	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を	11 住み続けられる まちづくりを 	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	12 つくる責任 つかう責任 	1	2	3	4	5	6

13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に興味がある」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

1－5. あなたの自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		全く 影響しない	ほとんど 影響しない	あまり 影響しない	少し 影響する	まあまあ 影響する	非常に強く 影響する
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6

4. 目標 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育を みんなに 	1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を 実現しよう 	1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレ を世界中に 	1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も	8 働きがいも 経済成長も 	1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう	10 人や国の不平等 をなくそう 	1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を	11 住み続けられる まちづくりを 	1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任	12 つくる責任 つかう責任 	1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を	13 気候変動に 具体的な対策を 	1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう	14 海の豊かさ を守ろう 	1	2	3	4	5	6

15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「全く影響しない」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

2-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

2-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月 1 回未満	月 1 ～ 3 回	週 1 ～ 3 回	週 4 ～ 6 回	毎日 1 回	毎日 2 回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)	1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	---

	行っていない 全く	行っていない ほとんど	行っていない あまり	行っている 少し	行っている まあまあ	行っている いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

2-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

○自室に冷房はない

2-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1～3回	週1～3回	週4～6回	毎日1回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調	1	2	3	4	5	6

理されたものも含まれます。)						
7. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
8. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
9. 代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6
10. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6

2－5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど毎日食べる
○2. 週に 2～3 日食べない
○3. 週に 4～5 日食べない
○4. ほとんど食べない

2－6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1～3 回実施したことがある	4～9 回実施したことがある	10 回以上実施したことがある
1. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、環境保全に関するボランティア活動。(例：ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例：教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例：ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について、他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4
10. SDGs に関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択し	1	2	3	4

てください。				
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

2－7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。
最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- ☐ 1. 全くしていない
- ☐ 2. ほとんどしていない
- ☐ 3. あまりしていない
- ☐ 4. 少ししている
- ☐ 5. たまにしている
- ☐ 6. いつもしている

3. あなたご自身が、SDGs の達成のためにできることは何だと思われますか。自由にお書きください。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。(出典：外務省：SDGs とは？ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

4. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに (つまり、どの選択肢もクリックせずに)、次のページに進んでください。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

【参考資料】調査質問紙（教職員対象）

< 調査説明画面 >

【SDGs推進研究所】令和5年度SDGs認知度調査 （教職員対象）

調査の目的と協力をお願い

- ・この調査は、教職員の皆様の、SDGs※に関するお考えを伺い、本学でSDGsをより強力に推進するための方法を検討することを目的としております。
- ・調査の結果は、本学のSDGs推進活動・広報活動における基礎資料として活用されます。
- ・下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

※SDGsとは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

調査協力に関して

- ・本調査は、皆様の自由意思を尊重しています。調査目的等をご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・調査への回答の所要時間は、10分程度です。
- ・調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、一切の不利益を被ることはありません。
- ・調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。本調査の回答を取り下げる際には、2024年1月末日までに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

個人情報保護に関して

- ・データは調査固有のID番号で管理し、研究所HP等に公表する際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。
- ・結果は責任者が厳重に管理し、本学及びSDGs推進研究所の業務以外の目的に使われることはありません。

回答期限

2024年1月31日（水）

< 調査責任者 >

SDGs推進研究所長 斎藤悦子

< 調査に関するお問い合わせ >

SDGs推進研究所事務局

sdgs-office@ocha.ac.jp

<SDGs 認知度に関する質問>

はじめに、SDGsに対するあなたの知識やお考え、参画意識についてお伺いします。



1. あなたは、SDGsについて知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。



- ☐ 1.SDGsについて聞いたことがない。
- ☐ 2.SDGsについて聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- ☐ 3.SDGsについて聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- ☐ 4.上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- ☐ 5.上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

2. あなたは、SDGsにどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。



- ☐ 1.全く関心がない。
- ☐ 2.ほとんど関心がない。
- ☐ 3.どちらかといえば関心がない。
- ☐ 4.どちらかといえば関心がある。
- ☐ 5.やや関心がある。
- ☐ 6.非常に関心がある。

<参画意識に関する質問－研究> 赤字は補足説明

3. あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。業務に研究が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。

☐ 

☐ 1.全く参画していない

☐ 2.あまり参画していない

☐ 3.どちらともいえない

☒ 4.少し参画している

☐ 5.積極的に参画している

☐ 6.自分の業務に研究は含まれていない

**選択肢1or2or3を選択
→質問4は非表示、質問5のみ回答**

選択肢4or5を選択→質問4・5とも表示

**選択肢6を選択
→質問4・5とも非表示、質問6へ**

4. 研究を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。 ☐

回答を入力してください

(質問3で選択肢4or5を選択した場合に表示)

5. 今後、ご自身の研究を通じてSDGs参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。 ☐

回答を入力してください

(質問3で選択肢1～5を選択した場合に表示)

＜参画意識に関する質問－教育＞ 赤字は補足説明

6. あなたは現在、本学学生への教育を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。業務に教育が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。



- ☐ 1.全く参画していない
- ☐ 2.あまり参画していない
- ☐ 3.どちらともいえない
- ☐ 4.少し参画している
- ☒ 5.積極的に参画している

**選択肢1or2or3を選択
→質問7は非表示、質問8のみ回答**

選択肢4or5を選択→質問7・8とも表示

- ☐ 6.自分の業務に教育は含まれていない

**選択肢6を選択
→質問7・8とも非表示、質問9へ**

7. 本学学生への教育を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください

(質問6で選択肢4or5を選択した場合に表示)

8. 今後、本学学生への教育を通じてSDGs参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください

(質問6で選択肢1～5を選択した場合に表示)

＜参画意識に関する質問－その他の業務＞ 赤字は補足説明

9. **職員の方**：あなたは現在、ご自身の学内業務を通じて、SDGs達成に参画していますか。

教員の方：あなたは現在、研究・教育以外の活動を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。 ☐ ☐

☐ 1.全く参画していない

☐ 2.あまり参画していない

☐ 3.どちらともいえない

☒ 4.少し参画している

☐ 5.積極的に参画している

選択肢1or2or3を選択

→質問10は非表示、質問11のみ回答

選択肢4or5を選択→質問10・11とも表示

10. **職員の方**：学内業務を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

教員の方：研究・教育以外の活動を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。 ☐

回答を入力してください

(質問9で選択肢4or5を選択した場合に表示)

11. 今後、学内業務（職員の方）や研究・教育以外の活動（教員の方）でSDGs達成に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。 ☐

回答を入力してください


(質問9の選択に関わらず表示)

＜本研究所の活動に関する質問＞



11. あなたは、以下のSDGs推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。
もっとも当てはまるものをそれぞれ選択してください。 ☐ ☒

	聞いたことが ない	聞いたこと があるが、 内容はよく 分からない	聞いたこと があり、内 容について 少しは知 っている	聞いたこと があり、内 容について 詳しく知っ ている
(1) 研究所のSDGs推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) THEインパクトランキングにエントリーしていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 研究所が研究助成を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 研究所がサステナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 研究所が地域や企業とサステナビリティに関する連携を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6) 附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7) 研究所に学生委員会(OCHA-SDGs学生委員会)があること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8) 学生委員会がPETボトル削減を目的とした学内給水マップを作成したこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(9) 学生委員会が生協と連携し昆虫食フェアを行ったこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(10) 学生委員会が生協食堂でOcha Echo弁当の企画や広報に関わったこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<自由記述及び属性> 赤字は補足説明

12. 本学のSDGs推進活動に対するご意見をお聞かせください。 

回答を入力してください

13. 性別を教えてください。  

☒ 男性

☐ 女性

☐ その他

14. 年齢を教えてください。  



☒ 18-29歳

☐ 30-39歳

☐ 40-49歳

☐ 50-59歳

☐ 60歳以上

15. あなたの主なご所属先を教えてください。  

☒ 文教育学部

☐ 理学部

☐ 生活科学部


☐ センター・研究所

☐ 事務系職

☐ その他

送信

→送信ボタンを押すと下の回答完了画面が表示

 ありがとうございます。

これで職員の方は終了です。教員の方は引き続き、SDGsに関する研究・教育について以下のサイトで情報入力（記名式）をお願いします。

SDGsに関連する研究・教育情報の入力はこちら <https://forms.office.com/r/M8bnGeggtw>

別の回答を送信

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
2022-2023 年度 SDGs 認知度調査 結果のまとめ

2024 年 10 月

発行：お茶の水女子大学 サステイナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610
東京都文京区大塚 2-1-1

Tel : 03-5978-2568

Fax: 03-5978-5766

E-mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp
